

# 認知症介護 研究・研修 東京センター

# 2010 年報



2010 年度  
認知症介護研究・研修  
東京センター

年報



序にかえて

2010年度年報をお届けする。今年は地域包括ケアに関する話題が様々な形で取り上げられた。地域包括ケアは決して新しい考え方ではなく、認知症ケアについて言えば、ごくあたり前の考え方である。認知症の代表的な原因疾患であるアルツハイマー病の人は数年単位の経過で見れば必ず悪化方向にすべての機能が変化していく。このような特徴の疾患をもっている人に対する医療やケアの目標は生活をサポートすることであることを考えれば、地域包括ケアという視点は遅きに失したといっても過言ではないであろう。当センターの研究活動の一環として行われた「全国の市区町村における官民産学が協働した認知症地域支援体制づくりの着実な展開に向けた総合的推進に関する調査研究事業」および「認知症介護従事者研修のあり方の検討」などは地域包括ケアを推進するために大きな役割を果たすはずである。

もう1点、地域包括ケアを推進する上で大きな課題が医療とケアのコミュニケーションの不足をあげてもいいであろう。古くて新しい課題である。近年、国が積極的に施策を推進していることもあり、一部の地域では関係者一丸となった地域作りが進められつつある。医療とケアのコミュニケーションも地域包括ケアを進めて実現していく上では欠かすことができない。東京センターにおいても関わらなければならない大きな課題である。

さらに、研修事業が始まりおよそ10年が経つが、その中心的な事業である認知症介護指導者養成研修を含む認知症介護実践者等養成事業の見直しが21年度より進められている。いくつかの課題が指摘されているが、そのなかの1つに介護支援専門員を含む在宅ケア従事者が研修を受講しにくいという点がある。来年度には地域包括ケアに即した研修体制を整備するとともに認知症ケアの理念に一步でも近づける研修体制と内容の実現を目指して、実践的な研究を行い、その成果を現場にフィードバックしつつ、課題に取り組んでいきたい。

各位の忌憚のないご意見、ご批判をお願いする次第である。



平成23年12月  
認知症介護研究・研修東京センター  
センター長 本間 昭

序にかえて …………… 3

## Ⅰ 研究活動

1. 研究活動の概要 …………… 8
2. 2010年度の研究事業成果報告 …………… 9
  - 1) 高齢者の認知機能維持, あるいは認知機能の進行性低下に影響する生活習慣,  
介護予防意識の調査研究事業 …………… 9
  - 2) 全国の市区町村における官民産学が協働した認知症地域支援体制づくりの着実な展開に  
むけた総合的推進に関する調査研究事業 …………… 11
  - 3) 認知症介護従事者研修のあり方の検討－認知症介護実践者等養成事業の社会的意義と  
課題－ …………… 13
  - 4) 認知症地域包括ケアのあり方に関する研究事業 …………… 15
  - 5) 認知症高齢者の家族と医療の連携促進事業 …………… 17

---

## Ⅱ 研修活動

1. 研修活動の概要 …………… 20
2. 認知症介護指導者養成研修事業 …………… 21
  - 1) 2010年度カリキュラム概要 …………… 26
  - 2) 2010年度カリキュラムの評価 …………… 27
  - 3) 認知症介護指導者フォローアップ研修 …………… 28
3. ユニットケア研修事業報告 …………… 31
4. 認知症の人のためのケアマネジメント推進事業 …………… 33

## Ⅲ その他の事業

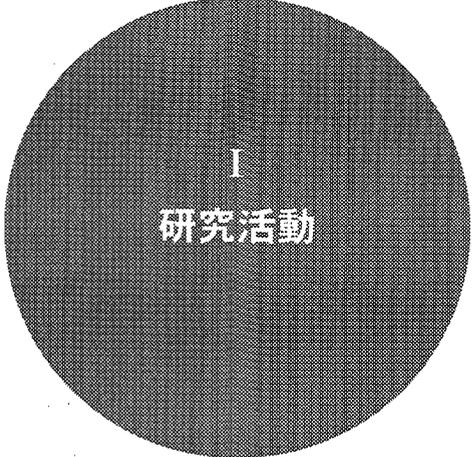
1. 2009年度東京センター研究成果報告会開催報告 …………… 36
2. 平成22年度東京センター啓発講演会 …………… 37
3. 認知症介護研究・研修センター 設立10周年記念公開講座「2025年の認知症ケア」 …………… 38

## Ⅳ スタッフ紹介 …………… 40

## Ⅴ 運営部活動報告

1. 事業実践記報告 …………… 46
2. 2010年度東京センター活動一覧 …………… 48





I  
研究活動

# 1. 研究活動の概要

研究部長 須貝佑一

センターが発足して11年。この間に各年度ごとに様々な調査研究事業を手がけてきました。その中には実際の介護現場に役立てるような比較的普遍性をもった調査研究事業がある一方、過去には研究者の関心領域に依存した個別の調査研究事業や具体的な成果に乏しい調査研究も少なからずあったことは否めません。ここ2、3年研究事業への研究費枠が狭まるにつれて従来のように自由研究的な課題の採択はセンター事業、健康増進事業にはなじまなくなりつつあります。今の課題は何か、どのような成果をあげていくのかが問われています。こうした問題意識を持ちながら、具体的な成果を意識しつつ22年度研究に取り組んできました。

## 22年度の研究概要

これまで行ってきた東京センターの研究課題の大枠は「地域ケア」と認知症ケアのための人材育成です。実際、上記のような問題意識から、平成19年より「認知症対応の視点から見た地域診断の指標づくりに関する調査研究」を皮切りに地域ケアに焦点を当てたいくつかの調査研究、「ひもときシート」の作成、自治体の地域作りへの支援、調査活動を行ってきたところです。その成果の一部を生かすために認知症ケアガイドブックの形で啓発書の刊行を予定していますが、さらに研究成果を発展させ、のばすために22年度の研究にいっそうの力をそそいできました。22年度の成果は報告書にまとめ、DCネットでも閲覧できるようになっています。成果の一部は5月に地元の杉並区のセイシオン杉並で行った研究報告会で取り上げ、一般の方々にもわかりやすく解説をしてきました。22年度の調査研究成果は別項で紹介していますが、まずはそのテーマ一覧を掲げましたのでご参照ください。

### テーマ一覧

- 1) 高齢者の認知機能維持、あるいは認知機能の進行性低下に影響する生活習慣、介護予防意識の調査研究事業
- 2) 全国の市区町村における官民産学が協働した認知症地域支援体制づくりの着実な展開にむけた総合的推進に関する調査研究事業
- 3) 認知症介護従事者研修のあり方の検討－認知症介護実践者等養成事業の社会的意義と課題－
- 4) 認知症地域包括ケアのあり方に関する研究事業
- 5) 認知症高齢者の家族と医療の連携促進事業

(須貝 佑一)

## 2. 2010年度の研究事業成果報告

### 1) 高齢者の認知機能維持, あるいは認知機能の進行性低下に影響する生活習慣, 介護予防意識の調査研究事業

杉山 智子 (順天堂大学医療看護学部 高齢者看護学 講師)  
林 邦彦 (群馬大学医学部保健学科 医療基礎学 教授)  
古田 伸夫 (社会福祉法人浴風会 浴風会病院 精神科 院長)  
松村 康弘 (桐生大学医療保健学部 教授)  
丸井 英二 (順天堂大学医学部 公衆衛生学 教授)  
山崎 由花 (順天堂大学医学部 公衆衛生学 助教)  
山本精一郎 (国立がん研究センターがん対策情報センター がん情報・統計部 室長)  
吉田 亮一 (社会福祉法人浴風会 浴風会病院 院長)  
小野寺敦志 (国際医療福祉大学大学院医療福祉学研究科 臨床心理学専攻 准教授)  
渡邊 浩文 (認知症介護研究・研修東京センター 研究主幹)

#### ■目的と方法

認知症介護予防を含めた介護予防事業は各地域包括支援センター, 自治体を核に進められています。しかし, 現在の認知症介護予防の方法とプログラムはおもに諸外国の疫学的研究報告から類推してよかれと思われる点を取り上げて作られています。そこで諸外国のデータの援用だけでなく, 日本で生活する高齢者の実際の認知レベルの推移, 自然経過を把握し, 認知レベルの維持, 低下に及ぼしている因子を抽出することは, 現在の認知症介護予防教室のあり方を見直し, 今後の認知症介護予防事業の立ち上げ, 運営を効果的に進めるうえできわめて重要と考え, この調査事業を企画しました。

事業を推進するために第一事業を「高齢者の認知機能の進行性低下に影響する生活習慣調査研究事業」とし, 第二事業については, 「介護予防事業参加者の特性調査研究事業」としました。

高齢者の認知機能の進行性低下に影響する生活習慣調査研究事業として展開した頭の集団検診事業では, 認知症の早期発見のために効果的なリスク予測を可能にする指標の検討を進めました。検診内容は, 生活習慣調査(生活習慣・活動に関する問診表(2009年版), 認知機能検査(Mini-Mental State Examination:MMSE), 物語記憶再生テストならびに頭部 X 線 CT を行いました。生活習慣調査では日頃の食事, 運動, 余暇, 社会との交流, 精神状態を中心に調査しました。第二事業ではどのような方々が介護予防事業に参加しているのかを調べました。第一事業で用いた生活習慣調査と認知機能検査(Mini-Mental State Examination:MMSE)も行いました。介護予防事業への参加に関する内容, IADL, 介護保険利用状況も同時に調べております。

#### ■結果

その結果によると, ①1日に30分以上歩くことがほとんどない, または, たまにしかいない者は MMSE という簡易知能テストの点数が 24 点以下の認知症レベルになる傾向を認めてい

ます。②毎日ではなく、週1~6回ほど歩く高齢者のMMSE点数が最も高い傾向を示しました。③読書をほとんどしない高齢者のMMSE点数は低く、読書をよくするは高齢者はMMSEの点数が高い傾向にありました。④パソコン、携帯電話のメールをほとんど使わない高齢者のMMSE点数は低く、毎日使う者ほどMMSEが高い傾向を示しました。食習慣ではいくつかの食品の摂取が認知機能の維持、向上に役立つのではないかと示唆が得られています。

飲酒量とMMSE点数の分布の関連では、飲酒量が多くなるに従い、MMSE 24点以下の高齢者の割合が低い傾向が見られました。つまり、飲酒している方のほうが、認知レベル維持により影響をもっていることが示唆されています。

断面調査において、飲酒量や日本茶の摂取頻度などのように、統計学的には有意ではないが、毎年行う調査で決まって同じような傾向を示すのです。これらについて、今後、さらに経過を追う前向き研究の調査で検討を行うことが必要です。ソーシャルキャピタル（社会的なつきあい）については、近所でつきあっている人の数、友人・知人とのつきあいの多いほどMMSEの点数でみた認知機能は高く、また、友人・知人とのつきあいが頻繁にあるほど認知機能は高い傾向を示していました。反面、親戚・親類とのつきあいは認知機能とは関連がみられませんでした。「遠い親戚より近くの他人」ということわざも認知機能とおおに関連があることをうかがわせる結果でした。

介護予防事業への参加者平均年齢は83.7歳と高齢でした。またMMSE点数でみると一般高齢者住民28.1点に対し介護予防事業参加群は26.3点と差がみられ、軽度認知障害レベルのかたがたが多く含まれる集団とみられました。

予防意識の調査も同時に行いましたが、参加者の認知症予防への関心は高く、認知症の予防行動を自分なりに行っている高齢者が半数以上占めました。介護予防事業への予防意識について9割以上と高い関心を示していました。しかし、認知症に特化した認知症予防教室へ参加している高齢者は、介護予防事業参加群で約2割、一般住民高齢者で約1割とわずかであり、認知症の予防行動は自分なりにとるものの、地域で行う事業への継続的参加となるタイミングで少数で、なお認知症介護予防への取り組みには課題があるように思いました。認知症介護予防教室への参加割合は少なかったものの、実際に参加経験のある方からは参加の感想も前向きな意見が多くあり、また、効果も多少なりともあったと回答している方が多数を占めました。このことから、事業の普及という点でも更に力を入れていくと効果的な事業を多くの人に利用してもらえと考えられました。

介護予防事業や認知症予防への高い関心を持っている集団に対しては、事業をきっかけに更に多くの事業への参加の足がかりや新たなコミュニティを作りだすなどして、心理的サポートも含めた事業の展開を行っていくことの必要性が示唆されたと考えています。

介護の現場や施策への反映に期待される研究成果

認知症介護予防プログラム内容の質の向上とスタッフのスキルアップに寄与

地域における認知症早期発見のための集団検診方式の確立。費用対効果の面で寄与する。

予防教室参加者選定で参考資料となる。

## 2) 全国の市区町村における官民産学が協働した認知症地域支援体制づくりの着実な展開におけた総合的推進に関する調査研究事業

永田久美子（認知症介護研究・研修東京センター）  
小森由美子（認知症介護研究・研修東京センター）  
熊倉 祐子（認知症介護研究・研修東京センター）

### ■事業目的

全国の自治体・地域が、官民産学協働の認知症地域支援体制づくりを着実・継続的に展開していくための総合的な推進システムを構築することを目的に5事業を実施した。

### ■事業概要

#### 事業1 自治体における認知症地域支援体制づくり推進に関する現況調査

全都道府県および全市区町村を対象に、認知症地域支援体制づくりの取り組みと進捗状況に関するアンケート調査を実施し、現状と課題を分析した。

#### 事業2 自治体による認知症地域支援体制づくりの事業マネジメントの推進

都道府県および市区町村が、計画的・継続的に認知症地域支援体制づくりをすすめていくために、調査結果やヒアリングをもとに、事業マネジメントのポイントの整理・検討、およびポイントを活かした自治体の取り組みの推進を行った。

#### 事業3 全国-都道府県-市区町村が連動した地域支援体制の推進システムの開発

全国および都道府県、管内市区町村、管内小地域レベルで支援体制づくりの取組みに関する情報や方策を伝達・検討しあう系統的なセミナーを開催し、それらを通じて立場を超えたつながりと協働を育てながら地域支援体制を重層的に進展させていくためのシステムを開発した。

#### 事業4 「認知症を知り地域をつくる」キャンペーン推進：全国フォーラム開催

全国フォーラムを公開で開催。今後の「認知症を知り地域をつくる」キャンペーンを全国各地でより効果的・継続的に普及・推進するための最新情報・知見の発信と、地域づくりを担当する行政担当者・関係者のネットワーキングの機会とした。

#### 事業5 認知症地域支援体制づくり情報ライブラリーの開発

認知症地域支援体制づくりに取り組む自治体/地域の関係者が、取組みプロセス・や成果（物）等に関する情報を共有・利活用しあうための情報ライブラリーを開発するために、既存成果物等の収集・分類・整理、ライブラリーのあり方に関するヒアリング、収集物の利活用の試行を行った。

### ■事業結果

#### 1. 自治体における認知症地域支援体制づくり推進に関する現況調査

有効回答数は、都道府県 42(89.4%)、市区町村 981 (56.1%) であった。集計・分析結果より下記の点が明らかになった。

- ① 自治体による認知症地域支援体制づくりの進捗状況の格差が大きい。
- ② 都道府県の推進があると、市区町村の認知症地域支援体制づくりが進展する。
- ③ 認知症地域支援体制構築等推進事業（モデル事業）に取り組んだ自治体はそれ以外の自治体にくらべて、認知症地域支援体制づくりが明らかに進捗している。
- ④ 実態把握や地域の課題分析、推進の核となる人材確保や組織体制などがなされないま

ま地域支援に関する緒事業を進めている自治体が半数以上。

- ⑤ 福祉・保健・医療関係者に加え、地域の民産学官、多様な資源を拡大しつつある一方、地域にすでにある多様なネットワーク（見守り、子育て、虐待防止、防災、自殺対策等）を活かしたネットワークづくりが進んでいない。

調査で明らかになった課題の対応策を考察するとともに、今回の調査項目を各自治体がセルフチェック項目として活かし、認知症地域支援体制づくりの進捗状況や課題をモニタリングしながら計画的に取り組みを進めていく方法を提示した。

なお、調査結果の詳細をまとめた報告書別冊2「調査データ篇」を作成した。

## 2. 自治体による認知症地域支援体制づくりの事業マネジメントの推進

地域支援体制づくりを効率的・継続的に推進するポイントが抽出・整理し、それを具体的に解説した資料を作成した。自治体関係者等のセミナーや検討会等で活用が図られ、関係者の共通方針や合意形成、アクションプラン作り等に反映された。

## 3. 全国-都道府県-市区町村が連動した地域支援体制づくりの推進システム

全国および都道府県、管内市区町村、管内小地域それぞれの場で、支援体制づくりに関する情報や方策を伝達・検討しあう系統的なセミナーを開催し、それらを通じて立場を超えたつながりと協働を育てながら地域支援体制を重層的に進展させていくシステムを開発した。具体的には、全国合同セミナーを3回、都道府県版市区町村セミナーを8府県、市町村版地域セミナーを8自治体・地域で開催する支援を行った。各セミナーは共通の教材やワークシート、アンケートを素材とし、各セミナーとも参加者アンケートの結果で有効性が高いことが確認された。

## 4. 「認知症を知り地域をつくる」キャンペーン普及推進：全国フォーラムの開催

参加者は、250名。参加者アンケート結果から、約9割の人が、フォーラムを通じて新たな視点を得られたり、取り組んでいく上での強化につながったと回答していた。当日の様子は新聞・雑誌等のメディアを通じて全国に発信された。

なおフォーラム資料は、報告書別冊1「地域づくり事例篇」を作成した。

## 5. 認知症地域支援体制づくり情報ライブラリーの開発

全国各地の成果物等の収集・分類・整理作業、および全国各地での利活用の試行を行った。情報ライブラリーを今後本格的に稼働させる場合に必要な機能・条件等が明らかになった。

今後の急増が確実な認知症の人とその家族を地域で支援する体制づくりが急務であり、これから着手する自治体・地域も、またすでに取り組みを進めている地域も、計画的・継続的な推進策が不可欠である。本研究で開発した緒システムにより自治体・地域での地域支援体制づくりを効率的に進めていける可能性が確認され、より実効性の高いシステムの実用化を進めていく予定である。

### 3) 認知症介護従事者研修のあり方の検討－認知症介護実践者等養成事業の社会的意義と課題－

- 本間 昭 (認知症介護研究・研修東京センター)
- 加藤 伸司 (認知症介護研究・研修仙台センター)
- 柳 務 (認知症介護研究・研修大府センター)
- 今井 幸充 (認知症介護研究・研修東京センター)
- 筒井 孝子 (国立保健医療科学院)
- 田中 雅子 (日本介護福祉士会)
- 中島紀恵子 (日本看護協会看護教育研究センター)
- 長田 久雄 (日本認知症ケア学会)
- 狩野 由子 (群馬県立高齢者介護総合センター 認知症介護指導者)
- 白仁田敏史 (グループホームあんのん 認知症介護指導者)
- 三上 裕司 (日本医師会)
- 村上 勝彦 (公益社団法人全国老人福祉施設協議会)
- 高橋 明 (社団法人 全国老人保健施設協会)
- 平井 基陽 (一般社団法人 日本慢性期医療協会)
- 長井 卷子 (日本認知症グループホーム協会)
- 木村 隆次 (日本介護支援専門員協会)
- 安藤 幸男 (認知症の人と家族の会)

#### ■背景と目的

これまで認知症介護実践者等養成事業をはじめとした認知症介護従事者研修の効果評価については、受講者の主観的な評価による研修受講後の意識の変化については評価され、その有効性が確認されてきた。しかし、今後、より効果的な研修体制を確立するためには、研修が研修修了者以外（修了者の所属施設の上司や部下等）にどのような効果を与えたか、すなわち研修の社会的意義を明らかにしていく必要がある。本研究では認知症介護研修の中核的な位置づけである認知症介護実践者等養成事業における研修特に実践リーダー研修及び認知症介護指導者養成研修の社会的意義を、多側面から検討した上で明らかにすることを目的とした。

#### ■方法

- 1 本研究事業を実施するにあたり、高齢者介護にかかる事業者団体及び施設協会、並びに有識者等からなる検討委員会を設け、認知症介護実践者等養成事業の現状と課題に関する議論を行うとともに、認知症介護従事者研修のあり方について検討した。検討委員会の開催回数は合計3回であった。
- 2 認知症介護実践研修の有効性と課題について、専門職団体・施設協会の認知症介護従事者やリーダー研修修了者及びその上司並びに認知症介護指導者研修修了者等に対する調査結果をもとに検討を行った。
- 3 認知症介護実践者等養成事業にかかる行政担当者セミナーを実施し、実践研修の現状と課題について情報収集した。
- 4 認知症専門ケアとみなすための基準について、委員会の議論及びこれまでの調査結果を踏まえて分析・考察した。

## ■結果

- 1 地域による実践研修のカリキュラムのばらつきの問題、指導者養成研修の事業所推薦、在宅サービスの質の確保などについて議論が行われた。認知症介護のコンピテンシーの明確化や標準カリキュラムの必修科目の見直し、在宅サービスに対応した研修構造の検討などの必要性が指摘された。
- 2 認知症ケアの力量に関する 125 項目についてアンケート調査を行い「指導者」「リーダー」「実践者」「特になし」群ごとに算出した平均値の変化を見た結果、特になしー実践者間、リーダーー指導者間において全カテゴリーで自己評価が高まっているのに対し、実践者ーリーダー間で高まっているカテゴリーは 70 項目中 36 項目と約半数であった。また「指導者」「リーダー」「実践者」「特になし」群ごとに認知症ケアの課題について尋ねたところ、研修修了者が課題として感じている認知症ケアの主な内容は、「職員間で考え方を一致させ連携をとりながら業務を行うこと」（実践者研修修了者：75.74%，リーダー研修修了者：77.61%，指導者研修修了者：54.39%）、「行動・心理症状への対応」（実践者研修修了者：65.35%，リーダー研修修了者：56.51%，指導者研修修了者：50.88%）、「ストレスを抱える職員の支援」（実践者研修修了者：51.49%，リーダー研修修了者：55.60%，指導者研修修了者 54.89%）などであった。
- 3 「実践研修の質の確保の課題と対策」「在宅サービスの質の確保の課題」「実践研修の評価と修了生の活用」などについて対策が議論され共有された。
- 4 研修の読み換えや専門ケア研修と位置付けるための要件について整理し、具体案を示した。

## ■考察

委員会における討議より、特に在宅サービスに対応した実践者等養成事業における研修構造の検討を行うと共に、カリキュラムのばらつきを是正するために何らかの対策を講じる必要があることが指摘された。一方、調査結果から実践者等養成事業の研修において、研修の段階が進むごとに修了者の自己評価が高まっていることが実証されたことを合わせて考えると、実践者等養成事業は、全体の枠組みとしては効果的なシステムとして機能していると考えられるものの、リーダー研修のカリキュラムや行動心理症状への対応、職員間で考え方を一致させ連携をとりながら業務を行うことを含めて、実践者等養成事業全体の見直しを行う必要があると考えられる。

#### 4) 認知症地域包括ケアのあり方に関する研究事業

佐藤 信人 (武蔵野大学)  
八森 淳 (市立伊東市民病院臨床研修センター)  
室谷 牧子 (堺市福祉サービス公社)  
黄瀬 忠博 (浅香山病院認知症疾患医療センター)  
佐々木勝則 (社会福祉法人 桜井の里福祉会 特別養護老人ホーム桜井の里)  
池田恵利子 (いけだ後見支援ネット)  
畦元智恵子 (杉並区役所保健福祉部高齢者在宅支援課)  
内田 孝子 (社会福祉法人 横浜市社会福祉協議会豊田地域ケアプラザ地域包括支援センター)

##### ■背景と目的

認知症の早期発見・医療との連携を含めた地域包括ケア体制の強化のために、全国 150 か所の地域包括支援センターに認知症疾患医療センターと連携する認知症連携担当者（以下、連携担当者とする）の配置が進められている。連携担当者が受講する研修は、これまで認知症介護指導者（以下、指導者とする）が担当することを前提にカリキュラムを作成されてきたが、今後さらに連携担当者を配置するためには、指導者以外の者が連携担当者になる場合の研修カリキュラムを検討することが求められる。また、地域包括支援センターが連携担当者とともに地域の認知症ケアの質向上を効果的・効率的に展開するためには、認知症ケアマニュアルの整備と普及が求められる。

以上を踏まえ、本研究では、①現在行われている認知症連携担当者研修の効果を検証し、認知症介護指導者以外の者が認知症連携担当者になる場合の研修カリキュラムを開発すること、②認知症連携担当者の活動状況を調査することによって、認知症連携担当者のフォローアップ体制のあり方について明らかにすること、③効果的・効率的に地域包括ケアを推進できるように地域包括支援センターにおける認知症対応マニュアルを開発することを目的として実施した。

##### ■方法

###### ① 連携担当者研修の効果検証とカリキュラム改定

連携担当者研修受講者に対して、研修受講直後にアンケート調査を行い、研修内容を評価した。具体的には、A.目的と内容の一致、B.カリキュラムの流れと順序、C.研修の日数・時間数について受講者に 5：当てはまる～1：当てはまらないまでの 5 件法及び自由記述で評価を求めた。また、その結果を踏まえ、研究委員会を組織し、カリキュラムについて検討した。

###### ② 連携担当者の活動状況

連携担当者研修受講者に対して研修受講前にアンケート調査を行い、連携担当者としての活動状況を調査した。調査では、「役割・活動内容」「疾患センターとの連携状況」「都県市との連携状況」「活動する地域の状況」などについて自由記述を中心に聞き取った。

###### ③ 認知症対応マニュアルの作成

研究委員会を組織し、地域包括支援センターにおける認知症対応マニュアルのあり方を検討し、委員メンバーを中心にマニュアルを作成した。

## ■結果と考察

### ① 連携担当者研修の効果検証とカリキュラム改定

期間中連携担当者研修を3回実施した。3回の研修の合計受講者数は42名であった。受講者の所持資格は半数以上が介護支援専門員であり、介護福祉士、社会福祉士、看護師、保健師等がみられた。アンケート調査の結果、目的と内容の一致については「地域におけるネットワーク体制を構築する」「認知症疾患医療センターにおいて認知症の確定診断を受けた者に対する支援を行う」「若年認知症者の支援を行う」という目的と内容の一致については共に平均点4点を超える結果が得られた。「他の地域包括支援センターに対する支援を行う」は、平均点3.7点であった。また、カリキュラムの流れ及び順序については、平均点で4点以上の評価が得られた。ただし、「研修の時間数は適切だった」は平均点が3.2点、「3日間という日数は適切であった」は平均点が2.9点であった。内容については概ね高い評価が得られたが、日数と時間数についてより長期の研修やフォローアップによるサポートを望む声があり課題となった。

### ② 連携担当者の活動状況

受講者42名から調査票を回収した。(回収率100%)「役割・活動内容」については、地域におけるネットワーク体制構築として、「徘徊SOSネットワークに参加」「町のネットワーク会議に参加」「サポーター養成講座への参加」「家族会等での講義」「かかりつけ医との関係づくり」「民生委員や地域の機関への事業説明」などが行われていた。認知症疾患医療センターとの連携として「週1回程度の会議で連絡調整」「電話・メールにより連絡調整」「疾患センターに出向き連絡調整」「インテークシートを作成し連携」などの意見があった。若年認知症者の支援については、「ハローワークの障害担当者、障害者職業センターの職員、疾患医療センター職員などで会議」「家族会の立ち上げ支援」「家族会への訪問と情報収集」「認知症デイ等での情報収集・ケース発掘」「住民への啓発」などの意見があった。他の地域包括センターに対する支援としては「会議や地域の部会での定期的な情報交換」「地域の研修会での事業説明」「包括センターの定例会での情報交換」「基本情報や相談記録の回覧」「研修会の情報提供」「ケースに対する具体的な助言指導」などがあった。認知症疾患医療センターとの連携は28名の受講者が「連携が取れている」と回答し、「連携が取れていない・どちらとも言えない」と回答したのは11名であった。都京市との連携について連携が取れているとしたのは21名(50%)であり、連携が取れていない・どちらとも言えないと回答したのは19名であった。対象地域の人口規模によって活動内容にばらつきがみられ、それらを踏まえたフォローアップ体制の構築が今後の課題となった。

### ③ 認知症対応マニュアルの作成

合計で3回の委員会を開催し、認知症対応マニュアルの内容を検討した。また、議論の結果を踏まえ、147ページからなる「地域包括支援センターにおける認知症ケアガイドライン」を作成した。ガイドラインは「認知症者支援のための連携の考え方」「地域包括ケアにおける認知症連携担当者と認知症疾患医療センター」「認知症ケアにおける医療連携」「高齢者虐待防止と権利擁護の実践」「若年認知症者への支援」「認知症者のケアマネジメント」「認知症ケアに関連する専門職」「認知症ケアにかかわる機関・事業」について具体的に説明する内容とした。

## 5) 認知症高齢者の家族と医療の連携促進事業

諏訪さゆり（千葉大学大学院看護学研究科）  
窪田滋比古（窪田クリニック）  
松永美根子（孔子の里）  
高橋 正彦（仙台市立病院精神科・認知症疾患医療センター）  
小林 厚子（クロス・サービス）  
小池富士子（朝日ホームおんせんリハビリテーションセンター）  
谷口 慶子（ケア24下井草）  
永島 光枝（認知症の人と家族の会千葉県支部）  
西村美智代（NPO法人生活介護ネットワーク）  
須藤 博子（笑正訪問看護ステーション）  
姜 文熙（認知症介護研究・研修東京センター）

### 1. 事業のねらい

認知症高齢者のBPSDに対する薬物療法については、加齢による薬物代謝機能の低下から副作用や持ち越し効果が起こりやすく、適切な薬物調整が困難な現状がある。さらに家族や介護支援専門員をはじめとする介護従事者が、処方された薬について再調整の必要性を感じても、医療機関と十分に連携が取れず困難を感じている現状がある。このような現状を踏まえると、家族介護者や介護支援専門員が認知症高齢者のための適切な薬物療法について知識を得て、安全かつ効果的に薬物療法を実施するための情報を家族・介護支援専門員・医療機関がお互いに共有することが重要であるといえる。以上を踏まえ、本事業のねらいを以下の3つとした。

- 1) 家族介護者が認知症高齢者の薬物療法についてどのような困難を経験しているのかを明らかにする。
- 2) 家族介護者に認知症高齢者の薬物療法について正確な知識を提供する。
- 3) 家族介護者が認知症高齢者の薬物療法に関する適切な情報を医療機関に提供することを支援する情報提供シートを開発する。

### 2. 事業内容

事業のねらい1) 2) 3)を遂行するために、認知症高齢者の家族と医療の連携促進事業研究委員会を設置し、事業内容の検討・支援シート案の検討などを行った。また、事業のねらい1)および2)を遂行するために、認知症高齢者の家族介護者と介護支援専門員を対象とした講習会「みんなで学び、みんなでチャレンジ 認知症ケア」を行い、講習会参加者にアンケート調査を実施した。

### 3. 事業経過

事業委員会を3回開催し、講習会プログラム内容の検討、アンケート内容の検討、講習会評価およびアンケート調査結果の分析、薬物療法支援シート内容の検討を行った。講習会は、東京・長野・愛媛で4回（うち東京2回）実施した。講習会全体で、家族介護者104名、介護支援専門員312名の合計416名の参加が得られた。

#### 4. 事業結果

##### 1) 認知症高齢者の薬物療法についての困難・課題について

講習会に参加した家族介護者からのアンケート調査結果から、家族介護者が認知症高齢者の薬物療法について経験している困難については、「薬の作用や副作用について知識を得ることや、薬の効果を確かめることに困難を感じる」などが明らかになった。また、薬の名前は知っていても、それが何の目的で処方されているのか把握していない家族介護者がいるということが明らかになった。

また、介護支援専門員へのアンケート調査結果から、介護支援専門員自身も薬について情報を十分把握できていないことや、支援につなげられないこと、医療機関との連携が十分に取れないことを困難・課題として感じていることが明らかになった。

##### 2) 本事業講習会の評価

講習会後アンケートにおける満足度などの結果から、効果的な講習会が実施できたと評価できた。

##### 3) 研究成果物（薬物療法に関する支援シート）

研究成果物として、家族介護者が認知症高齢者の薬物療法に関する適切な情報を医療機関に提供することを支援する情報提供のための冊子「認知症の方とご家族にこころもからだも安定した健やかな生活をもたらすケアとお薬のガイドブック」とシート「ケアと治療に生かす生活状態チェック表」を作成した。冊子とシートは、受診時に携帯しやすいよう「お薬手帳」と同サイズで作成し、携行出来るようなカバーも作成した。シートについては、家族介護者が認知症高齢者の状態の変化を、内服している薬と合わせて観察できるように、「お薬手帳」に貼付可能なシールタイプで作成し、家族が必要に応じてチェックできるような表とした。（本研究事業は、平成21年度独立行政法人福祉医療機構助成事業において実施した。）



II  
研修活動

## 1. 2010年度の研修活動の概要

2010年度の指導者研修受講生は、第1期9名、第2期19名、第3期21名と昨年度と比較するとやや減少傾向にあったが、ほぼ平年並みであった。

さらに2009年度と同様に、指導者受講申請者全員に実践事例報告を課し、これと受講者の受講要件を加味し、選考審査を行った。この目的は、指導者研修受講者の認知症ケアに関する実践経験を一定の評価基準を持って評価することであり、研修生に対して一定の認知症ケアに関する能力を求めた。この実践事例報告の評価基準として、倫理上の問題、適切なケアの取り組み、事例で申請者自身が学んだこと、適切な表現や専門用語の使い方、等を5段階評価とし評価した。この評価基準は無論、東京、大府、仙台の3センターが共通の評価基準を用いて評価している。これにより、研修生の認知症介護能力や資質が評価でき、認知症に関するケア能力が一定以上の研修生を受け入れることができた。

また2008年6月に発表された「認知症の医療と生活の質を高めるに緊急プロジェクト」で提案された「認知症連携担当者」の創設に伴いその役割を担う者の養成研修プログラムの開発を当センターで行い、2009年1月にはこの養成研修の為のモデル研修を行った。そして2010年度には、3回にわたり認知症連携担当者研修を行い、59名の研修者を迎え通算修了者数は101名となった。

東京センター研修部では、2009年度から認知症介護指導者に必要なコンピテンシーを明らかにする研究事業に取りかかっている。2010年度は専門職団体・施設協会等を含む認知症介護従事者に対してアンケート調査により、認知症介護の能力の自己評価を求めた結果、実践者研修、リーダー研修、指導者研修と、研修が進むごとに修了者の認知症介護の能力の自己評価が高まっている状況が明らかになった。2011年度は、これらの項目を分析し自己評価票として整理した上で信頼性の検討などを行い、全国で統一的な評価を行うためのツールとしての活用を目指す。

(今井 幸充)

## 2. 認知症介護指導者養成研修

### 認知症介護指導者養成研修

平成22年度の認知症介護指導者研修は開始から10年目を向かえ、第1回に9名、第2回に19名、第3回に21名が修了し、合計49名の認知症介護指導者を各地に送り出すことができた。したがってこの10年間に534人の認知症介護指導者が認知症介護実践研修（実践者・実践リーダー研修）の企画・運営や地域での認知症介護の推進役として活動していることになる。平成22年度の各回の修了者一覧を表1に挙げた。平成22年度の第1回から第3回目での研修で講義・演習を担当された外来講師は表2に示した。また平成22年度第1回の研修カリキュラムを表3に示した。

表1 平成22年度認知症介護指導者養成研修修了者一覧

	第1回 (28回生)	第2回 (29回生)	第3回 (30回生)
茨城県		田中良和	
栃木県	今井友和		
群馬県		生方雄一	
埼玉県		堀澤曉子	
千葉県		大橋輝巳	潮拓示
		筒井慈子	
東京都	遠藤憲彦	森川まるみ	島田洋介
	松波希代子		鈴木恵介
神奈川県			佐野芳彦
			望月瞳
新潟県	大越理恵	中林千夏	
福岡県	山本幹雄	石丸孝子	柴田安子
		田中信幸	松本昭子
		田中幸子	
佐賀県		福田清隆	溝口道昭
長崎県		浦方邦広	金子敦
			根津賢謙
			登立紗古
熊本県		平野由加里	緒方弘美
			佐藤智洋
大分県			衛藤政子
			平ヶ倉文雄
宮崎県	池田由香	江口智美	
鹿児島県	盛山禎子		園田タツ子
			吉井敦子
沖縄県	高志保慎一	嘉陽田かおり	玉城良弘
千葉市	古川孝行	村島淳	
横浜市			
川崎市			
北九州市		花田辰江	江里口久美子
		城田浩太郎	
福岡市		久保勝浩	
さいたま市			町田招洋
新潟市			片山達也
相模原市			
計	9	19	21

表2 平成22年度認知症介護指導者養成研修担当講師一覧

氏名	所属	担当回	担当講義名
西原 垂矢子	新潟大学 医学部 保健学科	①②③	おとなの学びが実るために
佐藤 信人	武蔵野大学 人間関係学部 社会福祉学科	①②③	認知症介護に関連する法制度の理解
		①②③	チームアプローチ&リーダーシップ演習
内藤 佳津雄	日本大学 文理学部 心理学研究室	①②③	認知症介護における人材育成の方向性
池田 恵利子	いけだ後見支援ネット/財団法人東京都福祉保健財団高齢者権利擁護支援センター	①②③	地域における高齢者虐待防止と権利擁護
大谷 佳子	昭和大学 保健医療学部	①②③	OJTにおける指導の実際
島田 幸治	社会福祉法人 植竹会 特別養護老人ホーム ゆたか	①	認知症介護現場におけるOJTの展開
増田 登賜隆	NPO法人 ゆめ家族 小規模多機能ホーム よかよか	①	認知症介護現場におけるOJTの展開
廣野 義明	有限会社 ウェルフェア グループホーム 秋津	②	認知症介護現場におけるOJTの展開
勇 節子	医療法人 啓仁会 介護老人保健施設 所沢ロイヤルの丘	②	認知症介護現場におけるOJTの展開
梶原 千津子	株式会社 横浜福祉研究所附属 グループホーム 夢観	③	認知症介護現場におけるOJTの展開
山本 信代	社会福祉法人 杏の会 地域密着型介護老人福祉施設 春	③	認知症介護現場におけるOJTの展開
菱沼 幹男	日本社会事業大学 社会福祉学部 福祉計画学科	①②③	地域連携の理解ーお互いに支え合う地域づくりを目指してー
武藤 とみ子	社会福祉法人 みどりの風 介護老人保健施設 みどりの杜	①	模擬演習
長谷川 礼子	社団医療法人 依田会 グループホーム さくらがおか	①	模擬演習
河村 俊一	桐生市地域包括支援センター	②	模擬演習
平賀 弘美	社会福祉法人 ゆりの木会 グループホーム ゆりの木苑	③	模擬演習
岩永 美貴	社会福祉法人 三栄会 特別養護老人ホーム ベルホーム	③	模擬演習
高山 謙	社会福祉法人 九十九里ホーム 老人保健施設 日向の里	①	職場研修成果報告・討議
名地 一直	社会福祉法人 長岡三古老人福祉会 特別養護老人ホーム 槇山けやき苑	①	職場研修成果報告・討議
今井 友和	上都賀厚生農業協同組合連合会 老人保健施設 かみつが	②	職場研修成果報告・討議
松波 希代子	医療法人財団 暁 あきる台グループホーム 滝山	②	職場研修成果報告・討議
生方 雄一	医療法人 大誠会 介護老人保健施設 大誠苑	③	職場研修成果報告・討議
村島 淳	株式会社 マウントバード 介護事業部	③	職場研修成果報告・討議
吉井 稔	中核地域支援センター さんぶエリアネット	①	認知症介護における研修カリキュラム構築の実際
宮坂 寿子	社会福祉法人 毛呂病院 特別養護老人ホーム ナーシングヴィラ与野	①	認知症介護における研修カリキュラム構築の実際
徳盛 裕元	社会福祉法人 喜寿会 グループホーム 美ら里さしき	②	認知症介護における研修カリキュラム構築の実際
熊谷 恵津子	株式会社 ニチイのほほえみ グループホーム ニチイのほほえみ瑞江	③	認知症介護における研修カリキュラム構築の実際
平井 恵美	三井不動産株式会社 ケアデザイン室	③	認知症介護における研修カリキュラム構築の実際

表3 平成22年度 認知症介護指導者養成研修カリキュラム

日程	平成22年度認知症介護指導者養成研修プログラム	時間
1日目 (月)	開講式 <b>1 認知症介護研修総論</b> 1) 研修オリエンテーション 2) おとなの学びが実るために レビューの説明・レビューの記入 交流会	10:00-10:40 10:50-12:00 13:30-15:00 17:10-18:00 18:30-20:00
2日目 (火)	本日の研修のねらい・諸連絡 <b>1 認知症介護研修総論</b> 3) 倫理と認知症介護 4) 認知症介護に関連する法制度の理解 5) チームアプローチ&リーダーシップ演習 1日のレビュー	9:00-9:10 9:10-10:40 10:50-12:20 13:20-17:00 17:00-17:30
3日目 (水)	本日の研修のねらい・諸連絡 <b>2 人材育成と教育実践</b> 1) 認知症介護における人材育成の方向性 2) 認知症介護実践の振り返り1 -理念の実現を目指した課題抽出- 3) 認知症介護実践の振り返り2 -課題解決のためのロジカルシンキングとクリティカルシンキング- 図書オリエンテーション	9:00-9:10 9:10-12:20 13:30-15:00 15:10-16:40 14:50-17:30
4日目 (木)	本日の研修のねらい・諸連絡 <b>3 地域ケアの実践</b> 1) 地域における高齢者虐待防止と権利擁護 <b>2 人材育成と教育実践</b> 3) 認知症介護実践の振り返り2 -課題解決のためのロジカルシンキングとクリティカルシンキング- 1日のレビュー	9:00-9:10 9:10-12:20 13:30-17:00 17:00-17:30
5日目 (金)	本日の研修のねらい・諸連絡 <b>2 人材育成と教育実践</b> 3) 認知症介護実践の振り返り2 -課題解決のためのロジカルシンキングとクリティカルシンキング- 4) 認知症介護実践の振り返り3 -課題解決に向けた討議- 1日のレビュー	9:00-9:10 9:10-12:20 13:30-17:00 17:00-17:30
6日目 (月)	本日の研修のねらい・諸連絡 <b>3 地域ケアの実践</b> 2) 地域連携の理解 -お互いに支え合う地域をめざして- 1日のレビュー	9:00-9:10 9:10-17:00 17:00-17:30
7日目 (火)	本日の研修のねらい・諸連絡 <b>2 人材育成と教育実践</b> 5) 認知症介護現場におけるOJTの展開 6) 認知症介護現場に響く授業の練り上げ方-効果的な授業の実施・評価・修正 7) 演習企画書の作成について 1日のレビュー	9:00-9:10 9:10-12:20 13:30-15:00 15:10-17:00 17:00-17:30
8日目 (水)	本日の研修のねらい・諸連絡 <b>1 認知症介護研修総論</b> 6) 認知症介護指導者の役割の理解 7) 研修の自己課題の設定並びに面接 <b>2 人材育成と教育実践</b> 8) 演習企画書の作成 1日のレビュー	9:00-9:10 9:10-10:10 10:20-14:10 14:20-17:00 17:00-17:30

II  
研修活動

表3 平成22年度 認知症介護指導者養成研修カリキュラム(つづき)

日程	平成22年度認知症介護指導者養成研修プログラム	時間
9日目 (木)	本日の研修のねらい・諸連絡 <u>2 人材育成と教育実践</u> 8) 演習企画書の作成 1日のレビュー	9:00- 9:10 9:10- 17:00 17:00- 17:30
10日目 (金)	本日の研修のねらい・諸連絡 <u>2 人材育成と教育実践</u> 9) OJTにおける指導の実際 1日のレビュー	9:00- 9:10 9:10- 17:00 17:00- 17:30
11日目 (月)	本日の研修のねらい・諸連絡 <u>3 地域ケアの実践</u> 3) 地域・介護現場における課題解決の実際(実習オリエンテーション) <u>2 人材育成と教育実践</u> 8) 演習企画書の作成 1日のレビュー	9:00- 9:10 9:10- 10:40 10:50- 17:00 17:00- 17:30
12日目 (火)	本日の研修のねらい・諸連絡 <u>2 人材育成と教育実践</u> 9) 演習企画書の作成 <u>1 認知症介護研修総論</u> 8) DCnetの理解 1日のレビュー	9:00- 9:10 9:10- 12:20 13:30- 17:00 17:00- 17:30
13日目 (水)	本日の研修のねらい・諸連絡 <u>2 人材育成と教育実践</u> 10) 模擬演習(ただしマイクロティーチング) <u>3 地域ケアの実践</u> 4) 地域支援体制構築等推進事業の実際	9:00- 9:10 9:10- 16:00 16:00- 17:30
14日目 (木)	本日の研修のねらい・諸連絡 <u>2 人材育成と教育実践</u> 11) 本間センター長と語らおう <u>4 課題解決のための実践</u> 1) 認知症介護実践研究の方法 2) 職場研修の企画・立案(講義) 3) 職場研修の企画・立案(演習) 1日のレビュー	9:00- 9:10 9:10- 10:40 10:50- 12:20 13:30- 15:00 15:10- 17:00 17:00- 17:30
15日目 (金)	本日の研修のねらい・諸連絡 <u>4 課題解決のための実践</u> 3) 職場研修の企画・立案(演習) 1日のレビュー	9:00- 9:10 9:10- 17:00 17:00- 17:30
職場研修 4週間 平成22年12月20日(月)～平成23年1月28日(金)		
16日目 (月)	本日の研修のねらい・諸連絡 <u>4 課題解決のための実践</u> 4) 職場研修成果報告・討議	9:00- 9:10 9:10- 17:30
17日目 (火)	本日の研修のねらい・諸連絡 <u>4 課題解決のための実践</u> 4) 職場研修成果報告・討議 <u>1 認知症介護研修総論</u> 9) 研修成果の評価 ① <u>3 地域ケアの実践</u> 3) 地域・介護現場における課題解決の実際(実習オリエンテーション) 1日のレビュー	9:00- 9:10 9:10- 10:40 10:50- 12:20 13:30- 17:00 17:00- 17:30

表3 平成22年度 認知症介護指導者養成研修カリキュラム(つづき)

日程	平成22年度認知症介護指導者養成研修プログラム	時間
18日目 (水)	<b>3 地域ケアの実践</b> 5) 地域・介護現場における課題解決の実践(施設実習)	各実習施設の 日勤の勤務時間
19日目 (木)	<b>3 地域ケアの実践</b> 5) 地域・介護現場における課題解決の実践(施設実習)	各実習施設の 日勤の勤務時間
20日目 (金)	本日の研修のねらい・諸連絡 <b>3 地域ケアの実践</b> 6) 地域・介護現場における課題解決の実践(施設実習2日間のまとめ) 7) 相談と支援のためのコミュニケーション(提案内容と伝え方の検討) <b>1 認知症介護研修総論</b> 10) ネットワーキングについて -指導者の活動におけるネットワーキングの必要性の理解-	9:00-9:10  9:10-10:40  10:50-16:40  16:50-17:30
21日目 (月)	<b>3 地域ケアの実践</b> 5) 地域・介護現場における課題解決の実践(施設実習)	各実習施設の 日勤の勤務時間
22日目 (火)	<b>3 地域ケアの実践</b> 5) 地域・介護現場における課題解決の実践(施設実習) 8) 地域・介護現場における課題解決の実践(実習まとめ)	各実習施設の 日勤の勤務時間 13:30-18:00
23日目 (水)	本日の研修のねらい・諸連絡 <b>2 人材育成と教育実践</b> 12) 認知症介護における研修カリキュラム構築の考え方 13) 認知症介護における研修カリキュラム構築の実際 1日のレビュー	9:00-9:10  9:10-10:40 10:50-17:00 17:00-17:30
24日目 (木)	本日の研修のねらい・諸連絡 <b>2 人材育成と教育実践</b> 13) 認知症介護における研修カリキュラム構築の実際 14) 認知症介護における研修カリキュラムの評価 情報交換会	9:00-9:10  9:10-16:40 16:50-17:50 18:30-20:00
25日目 (金)	本日の研修のねらい・諸連絡 <b>1 認知症介護研修総論</b> 11) 認知症介護理念の重要性の理解と展開方法 12) 研修成果の評価 ③ 修了式	9:00-9:10  9:10-12:20 13:30-15:20 15:30-17:00

## 1) 平成 22 年度カリキュラム概要 ー新たな単元を中心にー

平成 22 年度は、平成 21 年度に実施したカリキュラム改定の結果を踏まえ、単元の順序などを微調整した。具体的には以下のような調整を行った。

### ■他施設実習について

平成 21 年度は地域ケアの実践において位置づけられている地域・介護現場における課題解決の実践を認知症介護指導者養成研修のカリキュラムの最後に位置付けていたが、介護現場におけるカリキュラムの構築に関する単元を研修の総まとめとして最後に配置し、後期研修の中間に他施設実習を配置した。この変更により他施設実習期間中に休日が入ることとなり、研修生は、昨年度よりもゆとりを持って他施設実習に参加することができるようになった。

### ■認知症介護研修総論

認知症介護の理念の展開方法を検討するための「認知症介護の理念の重要性の理解と展開方法」については、昨年度は認知症介護指導者の実践報告及び演習を行ったが、平成 22 年度は、研修のまとめとして位置付け、実践者等養成事業の教育理念の構築とその実現のための検討を行う演習とした。

### ■人材育成と教育実践

研修のカリキュラム作成能力の育成及び授業の企画力と企画した授業の展開能力の養成をねらう本教科では、昨年度同様グループワークにより実践研修のカリキュラム構築を行い、研修企画者としての能力養成を図り、実際に演習を企画し、それを模擬的に実演するという方法で能力養成を図った。

### ■地域ケアの実践

地域における指導者としての人材育成能力の向上を図る本教科では、昨年度同様「地域連携の理解」という単元において、地域をどのように理解し、どのように地域のニーズをくみ取って認知症者の支援を展開するかについて、講義及び演習を実施した。また、「地域・介護現場における課題解決の実践」として他施設実習を行った。他施設実習は「実習施設における認知症介護の課題」の提示を依頼し、研修生がチームで課題を解決するための具体的なアドバイスをを行う実習とした。

### ■課題解決の実践

認知症介護に関連する課題解決能力の向上を図る本教科では、「職場研修」を実施した。「職場研修」では、自施設・事業所の認知症介護の質向上のための研修、または研修以外の取り組みを行い、その取り組みの成果を評価し報告することにより、課題解決能力の向上を目指した。

## 2) 2010年度のカリキュラムの評価

2010年度の第1回から第3回までの研修生全員が研修修了時にカリキュラム評価を行った。評価は、「企画能力育成」「指導能力育成」「スーパーバイズ能力養成」「カリキュラム構成」「カリキュラム順序性」「時間配分」の項目について研修生が5件法によって評価するという方法を用い、その平均点を算出した。その結果、「企画能力育成」で4.6点、「指導能力育成」で4.6点など、すべての項目で平均点4.0点以上の評価が示された。時間配分については、4.0点と相対的に低めであったが、昨年度と比較し、実習期間中に土日を挟む等の工夫を行い、昨年度よりは高い評価が得られている。ただし、自由記述を確認すると他施設実習について、より時間配分にゆとりが必要であるという意見があり、今後さらなる対応を検討する必要がある。カリキュラム評価の結果については表4に示す。

表4 平成22年度認知症介護指導者養成研修カリキュラム評価（1～3回分）

n=49

	企画能力 養成	指導能力 養成	スーパーバイザー 養成	カリキュラム 構成	カリキュラム 順序性	時間配分
平均値	4.6	4.6	4.3	4.4	4.5	4.0
最大値	5	5	5	5	5	5
最小値	3	4	1	3	3	1
標準偏差	0.54	0.50	0.83	0.65	0.62	0.90

II

研修活動

3) 認知症介護指導者 フォローアップ研修

認知症介護指導者フォローアップ研修は 2004 年度の本格実施から 6 年目を迎えた。フォローアップ研修第 1 回では 11 名が、そして第 2 回目では 13 名が受講した。すなわち、合計 24 名の指導者がフォローアップ研修に参加したことになる。参加者の名簿を表 5 に示した。

表 5 平成 22 年度認知症介護指導者フォローアップ研修受講者名簿

受講回	県名	氏名	所 属
第 1 回	茨 城	石 橋 さつき	社会福祉法人 翠清福祉会 グループホームかたくり
	神 奈 川	加 門 大 亮	有限会社 しおさい グループホームあゆの里 相模
	群 馬	小和田 美 晴	株式会社 あじさい グループホームあじさい
	栃 木	青 木 恵 子	社会福祉法人 くすの木会 グループホームいずみ
	長 崎	小 柳 美保子	有限会社 スローライフ・プランニング グループホームぎんなん
	福 岡	谷 口 和 子	社会福祉法人 それいゆ グループホームなかまちの家
	福 岡	中 村 益 子	社会福祉法人 笠松会 グループホーム笠松の郷
	大 分	山 本 裕 子	さわやか佐伯
	福 岡 市	小 田 ゆかり	株式会社 西日本介護サービス グループホームウィズライフ別府
	宮 崎	武 田 真由美	財団法人 潤和リハビリテーション振興財団 介護老人保健施設ひむか苑
	横 浜 市	松 田 昇	社会福祉法人 きらめき会 小規模多機能型居宅介護横浜いこいの里
第 2 回	大 分	吉 川 奈穂子	有限会社 なでしこ
	鹿 児 島	黒 岩 尚 文	共生ホームよかあんべ
	神 奈 川	郡 山 隆 行	社会福祉法人 神奈川県社会福祉事業団 湘南老人ホーム
	北九州市	田 中 良 幸	NPO 法人 グループホームやまびこ
	北九州市	野 口 恵 美	社会福祉法人 北九州市福祉事業団 北九州市立特別養護老人ホーム かざし園
	群 馬	石 川 崇	群馬県介護研修センター
	群 馬	扇 田 孝 行	久建産業株式会社グループ グループホームアリス
	東 京	長 澤 かほる	株式会社 ケアサークル 恵愛
	東 京	丸 山 寿 量	社会福祉法人 浴風会特別養護老人ホーム 第三南陽園
	長 崎	永 橋 紀 子	自宅
	福 岡 市	緒 方 大 介	社会福祉法人 福岡ケアサービス グループホーム安養
	宮 崎	橋 口 志 保	財団法人 潤和リハビリテーション振興財団 介護老人保健施設 ひむか苑
	横 浜 市	井 上 義 臣	高齢者グループホーム 横浜ゆうゆう

1) フォローアップ研修カリキュラム

平成 22 年度第 1 回および第 2 回の認知症介護指導者フォローアップ研修のカリキュラムは、表 6 に示したとおりである。このカリキュラムは厚生労働省の標準的カリキュラムすなわち、

- ・ 認知症の人の望む暮らしの継続を徹底的に支援する実践者の育成をねらいとしている新標準的カリキュラムを展開していくための最新知識
- ・ 認知症介護における人材育成のための方法
- ・ 認知症介護における課題解決の具体的方法
- ・ 認知症介護研修における効果的な授業の企画・運営のあり方
- ・ 研修の教育評価

に沿ったものである。

表 6 平成 22 年度認知症介護指導者フォローアップ研修カリキュラム

日程	時間	講義名
第1日目	09:30-10:00	開講式
	10:00-10:20	オリエンテーション
	10:30-12:30	認知症介護における倫理
	13:30-17:00	研究授業 : 認知症介護における効果的な授業開発1
	17:00-18:00	1日のレビュー
	18:15-20:00	情報交換会
第2日目	09:00-09:10	本日のねらい・諸連絡
	09:10-12:30	地域連携のあり方
	13:30-17:00	地域包括ケアを指導者として展開するための方策 - 実践者の報告 -
	17:00-17:30	1日のレビュー
第3日目	09:00-09:10	本日の研修のねらい・諸連絡
	09:10-12:30	研究授業 : 認知症介護における効果的な授業開発2
	13:30-17:00	研究授業 : 認知症介護における効果的な授業開発3
	17:00-17:30	1日のレビュー
第4日目	09:00-09:10	本日の研修のねらい・諸連絡
	09:10-10:40	認知症の最新情報
	10:50-12:30	若年認知症の人の理解と支援の実際
	13:30-17:00	認知症介護実践研修における授業評価のあり方
	17:00-17:30	1日のレビュー
第5日目	09:00-09:10	本日のねらい・諸連絡
	09:10-12:30	認知症介護における人材育成
	13:30-15:00	フォローアップ研修のまとめと評価
	15:00-15:30	1日のレビュー
	15:30-16:30	修了式

2) 平成 22 年度フォローアップ研修カリキュラム評価

フォローアップ研修においても、カリキュラム評価を行った。結果を表 6 に示す。評価項目は、大項目として「目標の適切さ」「目標と内容の一致」「方針の適切さ」「方針と内容の一致」「カリキュラム構成」がありその下に、3～5 項目の下位項目が設定された。それら合計 20 項目について、平均値でおおむね 4 点程度の評価を得ることができた。研修の内容に関しては、自由記述の評価より各地の研修カリキュラムとその課題及び対策に対する意見交換を求める意見や地域についてより深く掘り下げる単元の創設を求める意見などがあつた。

II  
研修活動

表6 平成22年度フォローアップ研修カリキュラム評価結果 (n=24)

評価項目			平均値	標準偏差	最大値	最小値
目標の適切さ	A-1	最新知見の理解	3.9	0.99	5	2
	A-2	人材育成能力養成	4.1	0.88	5	2
	A-3	課題解決能力養成	3.9	0.85	5	2
	A-4	授業企画運営能力養成	4.1	0.90	5	2
	A-5	自己評価能力養成	4.5	0.66	5	3
内容の目標と一致	B-1	A-1が達成できる内容であった	3.8	0.83	5	2
	B-2	A-2が達成できる内容であった	3.9	0.74	5	3
	B-3	A-3が達成できる内容であった	3.8	0.72	5	3
	B-4	A-4が達成できる内容であった	4.2	0.82	5	3
	B-5	A-5が達成できる内容であった	4.2	0.82	5	2
方針の適切さ	C-1	研修生から出た問題意識を大切にする	4.5	0.59	5	3
	C-2	実践研修について情報・共有検討しあう	4.5	0.72	5	2
	C-3	現場の実践について情報・共有検討しあう	4.4	0.71	5	3
	C-4	教育・指導力を高める	4.3	0.91	5	1
内容の方針と一致	D-1	C-1を念頭において内容を設定していた	4.1	0.90	5	1
	D-2	C-2を念頭において内容を設定していた	4.1	0.99	5	1
	D-3	C-3を念頭において内容を設定していた	4.2	0.96	5	1
	D-4	C-4を念頭において内容を設定していた	4.0	1.10	5	1
カリキュラム構成	E-1	カリキュラム構成	3.7	0.92	5	2
	E-2	カリキュラム順序性	3.8	1.01	5	2
	E-3	時間配分	3.6	1.01	5	2

### 3. ユニットケア研修事業報告

ユニットケア推進室の2010年度の研修等活動は、厚生労働省委託事業、都道府県委託の3種のユニットケア施設研修、施設ケアを支える他職種のための研修、研修修了生のフォローアップ研修、フォーラム等を行った。

#### 1) 研修等概要

##### (1) 厚生労働省委託事業

- ・指導者養成研修 → ユニットリーダー研修講義研修で研修内容を講義や演習を組み合わせさせて教えていくコーディネーター役や時には講師役になる人たちを養成する。座学5日間の初任者研修と、ユニットリーダー研修で実際コーディネーターと講師役を行う実地研修と、最後にまとめの修了時研修1日から組み立っている。

##### (2) 都道府県委託事業

- ・施設管理者研修 → 施設管理者を対象とした3日間の座学研修。講義と演習を組み合わせた内容で、ユニットケア運営のための基礎的知識と具体的な方法を学び、研修後に自施設において取組む具体的な運営計画を立てる。
- ・ユニットリーダー研修 → ユニットリーダーを対象とした3日間の講義研修と5日間の実地研修。講義と演習の座学とユニットケアを先進的に運営している実地研修施設にて、入居者の暮らし方と職員のサポートの仕方を総合的に学ぶ内容となっており、研修後には、管理者と同様自施設において取組む具体的な運営計画を立てる。  
\*両研修ともに、受講後1年を目安とし、管理者とリーダーが共同で運営計画書に沿った運営の達成について振り返り、東京センターに報告する
- ・ユニットリーダー研修実地研修施設選定委員会 → ユニットリーダー研修の実地研修施設の再認定と公募を行うために、事務局が当室に委託された。7月に委員会及び選定作業を行い、再認定6施設・応募20施設に対し、調査し選定をした。これにより実地研修施設総数は50施設となった。

##### (3) その他研修

ユニットケア運営には各部署の協働が不可欠である。各専門職に求められている役割を遂行できるような人材を育成するために下記の研修を行った。また、実地研修施設としてのケアの質の確認や最新情報の共有する機会となる勉強会、研修修了生に対するフォローアップのための研修や、実践事例を報告するフォーラムを開催した。

- (ア) 前期ユニットケア研修実地研修受入施設勉強会 (2日間) 東京センター 115人
- (イ) 後期ユニットケア研修実地研修受入施設勉強会 (2日間) 東京センター 116人
- (ウ) 東京センターユニットケア研修等事業計画説明会 (1日間) 東京センター 35人
- (エ) 第1回看護職のためのユニットケア研修 (2日間) 東京センター 90人
- (オ) 第2回看護職のためのユニットケア研修 (2日間) 東京センター 91人
- (カ) 第1回食に携わる職員のためのユニットケア研修 (2日間) 東京センター 85人
- (キ) 第2回食に携わる職員のためのユニットケア研修 (2日間) 東京センター 84人
- (ク) ユニットケア研修フォローアップ研修 (2日間) 東京センター 114人

## 2) 研修実績

### (1) 開催数

年 度	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	合計
管理者研修	7回	9回	10回	10回	13回	13回	11回	10回	83回
リーダー 研 修	回数	9回	23回	30回	25回	39回	33回	34回	229回
	教室数	9教室	23教室	30教室	74教室	123教室	142教室	137教室	678教室
指導者研修				2回	2回	2回	2回	1回	9回

### (2) 修了者数

年 度	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	合計
管理者研修	208名	269名	294名	298名	463名	443名	383名	348名	2706名
リーダー研修	189名	477名	639名	1796名	2908名	3036名	3166名	3246名	15457名
指導者研修				28名	30名	21名	15名	15名	109名

### (3) 都道府県政令都市別参加者数

県No.	都道府県 政令都市	管 理 者 研 修	リ ー ダ ー 研 修	指 導 者 研 修	県No.	都道府県 政令都市	管 理 者 研 修	リ ー ダ ー 研 修	指 導 者 研 修	県No.	都道府県 政令都市	管 理 者 研 修	リ ー ダ ー 研 修	指 導 者 研 修
1	北海道	5	97	0	24	三重県	9	83	0	47	沖縄県	1	9	0
2	青森県	7	32	0	25	滋賀県	4	53	0	48	札幌市	5	36	1
3	岩手県	9	50	0	26	京都府	7	22	1	49	仙台市	0	22	0
4	宮城県	5	71	0	27	大阪府	16	114	2	50	さいたま市	4	31	0
5	秋田県	11	47	0	28	兵庫県	4	67	0	51	千葉市	2	17	0
6	山形県	7	38	1	29	奈良県	4	38	0	52	川崎市	3	12	0
7	福島県	6	63	0	30	和歌山県	3	35	0	53	横浜市	5	77	0
8	茨城県	13	116	1	31	鳥取県	0	24	0	54	名古屋市	5	38	0
9	栃木県	17	79	0	32	島根県	6	29	0	55	京都市	4	44	2
10	群馬県	2	65	1	33	岡山県	5	54	0	56	大阪市	6	33	0
11	埼玉県	6	94	0	34	広島県	8	60	0	57	神戸市	1	47	0
12	千葉県	15	81	0	35	山口県	3	42	0	58	広島市	4	30	0
13	東京都	11	123	0	36	徳島県	3	17	0	59	北九州市	0	7	0
14	神奈川県	0	25	0	37	香川県	1	35	0	60	福岡市	4	41	0
15	新潟県	6	86	1	38	愛媛県	4	60	0	61	静岡市	3	24	0
16	富山県	5	29	0	39	高知県	1	15	0	62	堺市	2	24	0
17	石川県	4	39	0	40	福岡県	8	54	1	63	新潟市	0	41	2
18	福井県	6	57	0	41	佐賀県	2	17	0	64	浜松市	5	28	0
19	山梨県	0	20	0	42	長崎県	12	57	1	65	岡山市	1	20	0
20	長野県	2	74	0	43	熊本県	21	82	0	66	相模原市	2	15	0
21	岐阜県	8	73	0	44	大分県	6	59	0					
22	静岡県	1	67	0	45	宮崎県	3	38	1					
23	愛知県	7	112	0	46	鹿児島県	8	57	0		合計	348	3246	15

## 4. 認知症の人のためのケアマネジメント推進事業

### 1) 地域包括ケアの推進に向けた研修の実施

認知症の人のためのケアマネジメントセンター方式を、多職種が共通ツールとして活用しながら地域包括ケアを実践していくことを推進していくために、以下のような系統的な研修を実施した。

① センター方式地域型基礎研修	62回	1,764人
② センター方式活かし方セミナー	10回	156人
③ センター方式フォローアップ研修	6回	91人
④ 地域推進研修	11回	267人
⑤ テーマ型研修（本人・家族が活かす、若年性認知症、医療との連携）	3回	69人
⑥ 地域づくり講座	5回	350人

### 2) 自治体・各種組織がセンター方式を活用するためのバックアップ

自治体や各種サービス事業所団体、学校、市民組織、企業、家族会等が、センター方式を活用して、人材育成や地域づくりを行うことをバックアップするために、問い合わせや支援依頼に対応し、研修企画の立案や研修開催の助言、講師やファシリテーターの紹介や調整、標準教材やワークシート等の提供を行った。

### 3) センター方式を活用する上での助言・支援

ケア職員や家族等が実際にケアを展開する際やケアカンファレンスの展開、地域や事業所内での人材育成等におけるセンター方式の活用に関する問い合わせに応じて、助言や支援、身近な地域での助言者役の紹介等を行った。

### 4) 平成22年度センター方式実践報告会

センター方式を多資源共通ツールとして活用しながら地域包括ケアを推進している実践事例を全国から幅広く集約し、その実践報告会を3月5日、品川（フロントビル）で開催した（210人が参加）。その実践報告集を作成した。

### 5) 「避難所ではがんばっている認知症の人・家族等への支援ガイド」の作成・情報提供

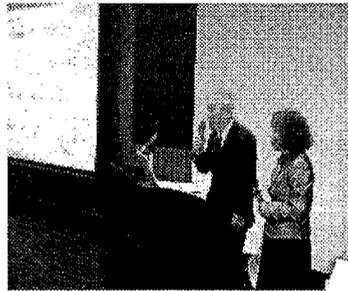
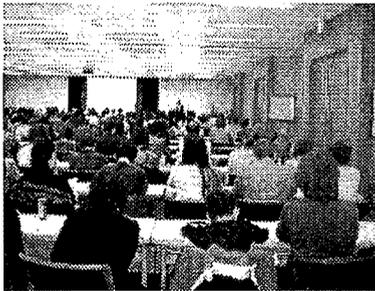
平成23年3月11日に発生した東日本大震災直後、現地の避難所等へ支援に入る行政関係者やケア関係者からの認知症の人の支援のあり方についての問い合わせに対応し、特に避難所での支援のあり方をまとめたガイドを作成し、情報提供を行った。

### 6) ホームページを通じた情報発信

「いっどこネット」を通じて、センター方式に関する研修や教材、活用例等に関する情報発信を行った。平成22年の運用状況として、「いっどこネット」の閲覧者数（visit）は年間187,971件、閲覧ページ数が632,209であり、センター方式シートのダウンロード数は、24,774であった（ウェブサーバー管理ソフトによる集計）。



地域型基礎研修開催風景：身近な地域の多様な事業所・職種の人たちが集まり，少人数でセンター方式を活用した本人本位のケア・地域のチームでの支援を講義・グループワークを通じて実践的に学ぶ（62 地域）。



センター方式実践報告会：全国から 200 名余りが参加。多様な立場でセンター方式を活用した成果と課題，今後の展望に関する報告（下記参照）をもとに，報告者と参加者間で活発な討議や情報交換が行われた。

<報告されたテーマ，報告者>

1. 一言を大切に：本人の困りごとにシートで気づき，地域で支えるプランで本人が安定したケース  
医療法人豊田会 刈谷中部地域包括支援センター 大羽 啓允さん
2. 在宅生活を支えた居宅チームが長年の情報をシートで施設へバトンタッチし，スムーズに施設生活が始まったケース  
グリーンコープやまぐち生活共同組合グリーンコープ  
居宅介護支援事業所 松本 麻子さん
3. 「私の支援マップシート」を活かして，地域での支援が広がったケース  
蒲郡市市民福祉部長寿課 竹本 美貴さん
4. 県の介護支援専門員協会がセンター方式を組織的に普及推進し介護支援専門員の資質向上と多職種協働が展開している例  
特定非営利活動法人兵庫県介護支援員協会 斐 鎬洙(ペホス)さん
5. 家族会がセンター方式の継続的勉強会を開催し，当事者の声を介護や医療に届け，力を合わせた支援へ  
老いを支える北九州家族の会  
会長 高田 芳信さん，副会長 卜藏 百合子さん

III

その他の事業

## 1. 2009年度東京センター研究成果報告会

東京センターにおける2009年度の研究成果報告会を2010年5月22日（土）に認知症介護研究・研修東京センター大会議室において開催した。当日は約200名の参加者を得て盛会のうちに会を終了することができた。

報告会では、事業報告として認知症ケア高度化推進事業について、アザレアンさなだ施設長宮島渡氏による報告を行い、研究報告として、研究・研修スタッフが各自担当した研究のうち、8研究課題の報告を行った。プログラムを以下に示したので参考にされたい。各研究の概要については、2009年度の研究成果報告書を参照されたい。なお、研究成果の事業報告は、随時ホームページの「認知症介護情報ネットワーク」（通称：DCnet）に掲載される。

### 研究成果報告会プログラム

開会 13:00	開会の挨拶	本間 昭 東京センター長
13:10-13:40	事業報告	「認知症ケア高度化推進事業」 演者：アザレアンさなだ 施設長 宮島渡
	研究報告	
13:40-14:00	杉山 智子	「認知症早期発見に地域包括支援センターがどう関わっているか。一都内の実態調査から報告」
14:00-14:20	小野寺敦志	「地域活動にける地域資源マップの活用」
14:20-14:40	渡邊 浩文	「居宅サービス計画書の説明と同意に関する家族の意識に関する調査」
		(休憩 15分)
14:55-15:15	永田久美子	「自治体での認知症地域支援体制づくりの継続的な推進にむけて」
15:15-15:35	第三南陽園	「認知症高齢者に対する屋上庭園の活用とその効果に関する研究」
15:35-15:55	南陽園	「認知症緩和ケアによるリラククス効果・睡眠への作用に関する研究」
15:55-16:15	秋葉 都子	「福祉教育関係機関におけるユニットケアの調査報告」
16:15-16:35	中村 考一	「認知症介護指導者養成研修の社会的価値に関する研究—認知症介護指導者の主観的評価を中心として—」
16:35～	閉会の挨拶	須貝 佑一 副センター長兼研究部長
閉会 16:45		

研究報告 座長 1 永田久美子 研究部副部長  
2 須貝 佑一 副センター長兼研究部長

## 2. 2010年度東京センター啓発講演会

東京センターにおける2010年度の啓発講演会を2011年3月10日(木)に認知症介護研究・研修東京センター大会議室において開催した。当日は約150名の参加者を得て盛会のうちに会を終了することができた。

講演会では、講演1として「認知症かな?と思ったら—診断から治療まで」をテーマに、本間 昭 認知症介護研究・研修東京センター センター長による講演を行った。講演2としては、「認知症の人でも安心して暮らせる地域づくり」をテーマに、国際医療福祉大学大学院准教授の小野寺敦志氏が講演を行った。その後、会場からの質疑応答を行い、活発な意見の交換が行われた。プログラムを以下に示したので参考にされたい。

### 啓発講演会プログラム

13:00	開場
13:30	開会の挨拶 長谷川和夫 認知症介護研究・研修東京センター 名誉センター長
13:40～14:20	「認知症かな?と思ったら—診断から治療まで」 本間 昭 認知症介護研究・研修東京センター センター長
	休憩
14:40～15:20	「認知症の人でも安心して暮らせる地域づくり」 小野寺敦志 国際医療福祉大学大学院 准教授
15:20～15:35	会場からの質疑応答
15:35	閉会の挨拶 森重賢治 認知症介護研究・研修東京センター 運営部長

### 3. 認知症介護研究・研修センター 設立10周年記念公開講座「2025年の認知症ケア」

認知症介護研究・研修センター 設立10周年記念公開講座を2010年11月13日(土)によみうりホールにおいて開催した。当日は約800名の参加者を得て盛会のうちに会を終了することができた。

公開講座では、認知症介護研究・研修東京センター名誉センター長の長谷川和夫氏の基調講演のあと、NHKアナウンサーの町永俊雄氏をコーディネーターとしてシンポジウム「2025年の認知症ケア」を行った。シンポジストとして、栗田主一氏(健康長寿医療センター研究所)、宮島 渡氏(高齢者総合福祉施設 アザレアンさなだ)、妻井令三氏(社)認知症の人と家族の会岡山県支部 代表)、長澤かほる氏(株式会社 ケアサークル恵愛)がそれぞれの立場から発言をした。プログラムを以下に示したので参考にされたい。

#### プログラム

13:00-13:10	開会の挨拶 社会福祉法人仁至会 理事長 祖父江逸郎
13:10-13:15	来賓挨拶 厚生労働省認知症対策推進室長 千葉登志夫
13:15-14:05	基調講演 長谷川和夫 認知症介護研究・研修東京センター 名誉センター長
14:05-14:25	休憩
14:25-16:05	シンポジウム「2025年の認知症ケア」 コーディネーター 町永俊雄 (NHKアナウンサー) ・シンポジスト 栗田 主一 健康長寿医療センター研究所(ケアの視点で医学的立場から) 宮島 渡 高齢者総合福祉施設 アザレアンさなだ(施設介護の立場から) 妻井 令三 (社)認知症の人と家族の会岡山県支部 代表(家族の立場から) 長澤かほる 株式会社 ケアサークル恵愛 (居宅、在宅ケアの立場)
16:05-16:10	閉会挨拶 本間 昭 (認知症介護研究・研修東京センター センター長)



IV  
スタッフ紹介

IV  
スタッフ紹介

凡例

- ①氏名
- ②常勤/非常勤  
役職と仕事の紹介
- ③専門分野
- ④自己紹介
- ⑤2010年度業績
- ⑥e-mailアドレス



①須貝 佑一 (すがい ゆういち)

②常勤, 研究部長兼副センター長: 介護研究部門の統括業務。

③老年精神医学

④本業は精神科医で, 患者さんを診る仕事が多く, 専門研究者ではありません。浴風会病院の診療部長を兼えています。世間で言われているようにこの分野でも医者不足です。外来では認知症を中心とした老年期の精神障害が増えています。精神科医二人で切り盛りし, やや過労気味です。介護が必要になって生活介護施設に入所してきた高齢者もほとんどが認知症です。しかも年齢は年ごとに高齢化し, 90歳代の方がたを診る機会が増えました。「早くお迎えにきてほしい」「早くあの世に逝きたい」とおっしゃいます。人が90歳, 100歳を生きることは何かを考えさせられる毎日です。

⑤【著書】(共著)

- ・須貝佑一, 竹中星郎, 頼富淳子「本人と家族のための認知症介護百科」永井書店, 2010.10
- ・須貝佑一, 小阪憲司「認知症の最新治療法がわかる本」洋泉社, 2011.3

(分担執筆)

- ・須貝佑一: 高齢者のうつ病治療と支援方法(地域包括支援, 総合相談事例集) 1673-11682, 第一法規, 2010.8
- ・須貝佑一: 認知症(樋口輝彦, 野村総一郎編, 心の医学事典) 235-337, 日本評論社, 2010.9
- ・須貝佑一: 高齢者うつ病(高齢者保健福祉実務研究会監修) 111-124, 第一法規, 2010.4
- ・須貝佑一: うつと栄養サポート(高齢者の栄養管理ガイドブック) 34-39, 文光堂, 2010.2

【原著論文】(共同執筆)

- ・Yukari Takai, Noriko Yamamoto-Mitani, Yumi Chiba, Yuichi Sugai: Abbey Pain Scale: Development and validation of the Japanese version. Geriatr Gerontol Int. 10; 145-153, 2010

【解説】

- ・須貝佑一: 認知症の薬に新たな選択肢「月刊ケアマネジメント」28-29: 3, 2011
- ・須貝佑一, 長谷川恵美子: リハビリスタッフが知っておくべき認知症の理解と対応「心臓リハビリテーション」15, 2: 232-235, 2010.6
- ・須貝佑一: 施設への入所は認知症の予防と進行抑制にどのような影響を与えるか「老年医学」48: 657-659: 5, 2010

⑥ysugai@dcnet.gr.jp



①今井 幸充 (いまい ゆきみち)

②非常勤, 副センター長兼研修部長

日本社会事業大学大学院福祉マネジメント研究科(専門職大学院)教授

③老年精神医学

2011年3月まで勤務



①永田 久美子 (ながた くみこ)

②研究部副部長, ケアマネジメント推進室長

<仕事の紹介>

- ・本人視点にたった理解と生活支援を, 地域の多資源が協働して行っているためのセンター方式の活用の推進と活用成果・課題の調査研究
- ・認知症のひとと家族が地域で暮らし続けるための地域支援体制を自治体単位で構築していくあり方と推進策の調査研究, 各地域のまちづくり支援
- ・認知症の本人が, 認知症と共により良く暮らしていくための本人支援, 認知症の本人同士の「本人ネットワーク」の支援と調査研究

③認知症ケア, 老年看護学, 老年学, 地域保健

④2010年8月に, 認知症の本人に先導してもらい, 生まれて初の富士登山をしました。一人ひとりの底力にむしろ勇気づけられながら, 毎日, 仕事をし暮らしています。

⑤【著書】

- ・永田久美子: 認知症ケアの基本, 高瀬義昌監著: 認知症の治療とケア～基礎から実践まで, じほう, 22011
- ・永田久美子: 対応が難しい認知症の方の理解と介護, 日本看護家政紹介事業協会, 2010

【学会発表】

- ・永田久美子, 遠藤英俊, 三浦研, 小森由美子, 熊倉裕子: 認知症の本人の生活課題および自己対処, 求めている支援に関する調査研究. 第11回日本認知症ケア学会, 9(2), 331, 2010
- ・小森由美子, 永田久美子, 熊倉祐子, 平林景子, 酒井清子, 中島多恵子: センター方式基礎研修の効果に関する検証調査: 認知症ケアに取り組む人材とチームを地域で継続的に育てるために. 第11回日本認知症ケア学会, 9(2), 416, 2010
- ・永田久美子: 早期ケアの必要性和今後のあり方, 認知症ケア学会中国地域大会(米子)抄録集 22-23, 2010
- ・諏訪免典子, 永田久美子, 池田武敏, 杉田英明, 福島廣子, 藤田麗子, 森上淑美, 石附敬, 多賀勉, 桑野康一: 認知症高齢者の広域行方不明者に対応した見守り SOS ネットワークの確立に向けた研究, 第11回日本認知症ケア学会, 9(2), 406, 2010

【総説論文】

- ・永田久美子: 認知症になっても安心して暮らせる町づくりクリニシャン, 第57巻, 591号, 2010
- ・永田久美子: 団地における認知症との共生の視点から団地のあり方を考える, 高齢者住宅財団ニュース 99, 1-14, 2010
- ・永田久美子: 認知症の人の声に耳を澄まそう, おはよう 21(11), 72-73, 2010
- ・永田久美子: 「センター方式」活用術, おはよう 21, 21(14), 11-15, 2010
- ・永田久美子: 本人の思いと力は失われない. 漢方医学 34:pp100-102, 2010
- ・永田久美子: 認知症の人の家族の心理と支援. 神経内科 72:pp229-234, 2010
- ・永田久美子: 残された感情, 能力をさぐる「センター方式とは?」, 季刊誌「NHK ためしてガッテン」2011年春号, 主婦の友社, 2011
- ・永田久美子: 認知症: 本人も家族も楽になるために, サルーテ 46, 2010

⑥knagata@itsu-doko.net

IV  
スタッフ紹介

凡例

- ①氏名
- ②常勤/非常勤  
役職と仕事の紹介
- ③専門分野
- ④自己紹介
- ⑤2010年度業績
- ⑥e-mailアドレス



①渡邊 浩文 (わたなべ ひろふみ)

②常勤, 研究主幹

③社会福祉学

④東京センターのスタッフとして勤務することになりましてから2年が過ぎました。微力ながら、認知症の方、その家族の皆様、そして認知症ケアに携わっておられる従事者の皆様のお力になれるよう尽力したいと考えております。よろしくお願ひいたします。

⑤【著書】(共著)

・渡邊浩文・今井幸充：病名告知. 三村蔭編, 最新医学別冊 新しい治療とABC 精神6 認知症. 最新医学社

【学会発表】

・渡邊浩文 居宅サービス計画書の説明と同意に関する家族の意識に関する調査 第58回日本社会福祉学会 愛知 第58回日本社会福祉学会 愛知

・鈴木貴子, 渡邊浩文, 佐藤美和子, 今井幸充, 長田久雄, 本間 昭 認知症の人へのケアプラン原案の説明必要性に関する意識と実際

・渡邊浩文, 中村考一, 諏訪さゆり, 今井幸充, 仲井真なつき, 本間 昭, 加藤伸司, 柳務 認知症介護指導者養成研修の社会的意義に関する研究 認知症介護指導者の主観的評価を中心として 第11回日本認知症ケア学会

⑥h-watanabe@dcnet.gr.jp



①大島 憲子 (おおしま のりこ)

②常勤, 主任研修主幹

認知症介護指導者養成研修, 認知症指導者フォローアップ研修, 認知症連携担当者研修等をフル回転で実施しています。研修内容の充実に努めたいと思っています。

③認知症ケア, 地域看護学, 老年看護学, 介護福祉教育

④平成22年4月に着任しました。遠距離通勤ですが、「気力, 体力, まだまだ大丈夫! 若いもの!」と年齢を顧みず頑張っています。家族は5人, 犬2頭です。

⑤【著書】(共著)

『社会福祉学習双書』編集委員会編 『社会福祉学習双書 2010 第15巻 介護概論』, P13-P28, 全国社会福祉協議会, 2010

⑥n-oshima@dcnet.gr.jp



- ①秋葉 都子 (あきば みやこ)
- ②常勤, 主任研修主幹
- ③高齢者福祉 (ユニットケア)  
2011年3月まで勤務



- ①中村 考一 (なかむら こういち)
- ②常勤, 研修主幹
- ④娘が8月に生まれ, 元気に育っております。
- ⑤博士論文「高齢者の行動観察による生活の構造と連鎖に関する分析」
- ⑥nakamura4851@dcnet.gr.jp



- ①長谷川 和夫 (はせがわ かずお)
- ②非常勤, 名誉センター長
- ⑤【著書】
  - ・認知症ケアの心 ーぬくもりの絆を創るー 中央法規出版, 2010.11
  - ・わかりやすい 認知症の医学知識 中央法規出版, 2011.3



- ①小野寺 敦志 (おのでら あつし)
- ②非常勤
- ③老年心理学, 臨床心理学  
2011年3月まで勤務



- ①仲井眞 なつき (なかいま なつき)
- ②非常勤, 研修指導員
- ④2009年11月より着任しています。研修事業に携わることは自己研鑽(修業?)の場だと実感しています。涅槃への道は遠いですね!
- ⑥n.nakaima@dcnet.gr.jp

IV  
スタッフ紹介

- 凡例
- ①氏名
  - ②常勤/非常勤  
役職と仕事の紹介
  - ③専門分野
  - ④自己紹介
  - ⑤2010年度業績
  - ⑥e-mailアドレス



①齊藤 祐介 (さいとう ゆうすけ)  
 ②非常勤・研修指導員  
 ④平成 22 年は 10 月からセンターの仕事をさせていただきました。1 年ぶりのセンターの業務、ありがたいことに (?) 慣らし運転の期間もなく怒涛のように過ぎていきました。そんな中、研修業務に携わり、人と人の繋がり有難さを日々、実感しています。  
 ⑥saitou.y@dcnet.gr.jp



①吉村 百代 (よしむら ももよ)  
 ②非常勤, 図書管理・研修事務  
 ④センターに居座って、ついに 10 年の月日が経ちました。猫は 10 年生きるとしっぽが 2 本生えた猫又という妖怪になるそうです。そろそろ私も何か 2 本になりそうです。  
 ⑥Bewitched27@dcnet.gr.jp

①石田 誠 (いしだ まこと)  
 ②非常勤  
 ③介護福祉  
 2011 年 3 月まで勤務

①宮口 恵美子 (みやぐち えみこ)  
 ②非常勤, 研修事務  
 2011 年 3 月まで勤務

①玉川 桜子 (たまがわ さくらこ)  
 ②出向  
 2011 年 3 月まで勤務

運営部	
運営部長	森 重 賢 治
運営部主管	中 口 豪
運営部主管	松 崎 勝 巳
運営部総務課長	多 胡 岳 志 (2011 年 11 月まで勤務)
運営部総務課長補佐	佐々木 春 男
運営部総務係長	富 島 理 恵



# 1. 事業実績報告

## (1) 運営体制等

### ア 認知症介護研究・研修センター全国運営協議会の開催

3センターの運営等を協議する第11回認知症介護研究・研修センター全国運営協議会を、東京センターが当番となって平成22年11月12日に東京で開催した。

## (2) 研究成果報告会等

### ア 東京センター研究成果報告会の開催

平成21年度研究事業の研究成果報告会を、平成22年5月22日(土)にセンター大会議室において開催し、認知症介護研究に対する関係者の理解を深めた。

### イ 認知症介護研究・研修センター設立10周年記念公開講座の開催

仙台・東京・大府の3センター共同により、「2025年の認知症ケア」と題して、平成22年11月13日(土)に「よみうりホール」で10周年記念公開講座を開催した。

### ウ 東京センター啓発講演会の開催

杉並区、杉並区医師会、杉並区社会福祉協議会の後援を得て、「認知症?そのときどうする」と題した啓発講演会を、平成23年3月10日(木)にセンター大会議室において開催した。

## (3) その他の事業

### ア 認知症の体験世界や本人ネットワーク等の普及

なじみの交流コーナーを活用して認知症の体験世界や本人ネットワーク等これまでの研究成果の普及・活用を推進した。

### イ 厚生労働省が実施する認知症地域支援体制構築等推進事業の支援

認知症地域支援体制構築等推進事業に関してこれまで集約した自治体およびモデル地域の関連情報を、平成22年度に事業に取り組むモデル事業関係者や、他の自治体・地域包括支援センター職員等に提供した。モデル地域等で行われる各種研修や講座、調査等に関する企画相談や資料提供、講師派遣を行った。

### ウ 認知症ケア高度化推進事業の実施

認知症の方やその家族のニーズに適切に対応するため、介護現場における認知症ケアの標準化・高度化を図ることを目的に、個別訪問相談援助、個別ケアの事例研究、海外調査を行い、ホームページ「ひもときねっと」に掲載した。

#### (事業実施概要)

- ・高度化推進委員会 3回開催
- ・ワーキングチーム委員会 9回開催
- ・倫理委員会 3回開催
- ・個別相談援助(事業所へ直接出向いた援助) 94事業所等
- ・ひもときシートを活用した認知症ケアの気づきを学ぶ研修会 9回  
(受講者1,329人)
- ・事例研究(掲載事例) 38事例
- ・海外調査 アメリカ、ドイツ

・その他の成果物 ひもときシート・ガイドライン等

エ 認知症介護研究情報ネットワーク

平成 22 年度の運用状況として、随時情報の更新等を行った結果、DCnet へのアクセス数（利用度）は昨年を上回る月平均 336 万 Hits であった。

オ 年報の発行

2009（平成 21）年度のセンターの研究事業、研修事業及びその他事業について、報告書にとりまとめ、年報として関係方面に配布した。

## 2. 2010年度 東京センター活動一覧

開催年月日	～ 修了年月日	研修会等の名称（開催場所）
平成 22 年 5 月 10 日	～ 7 月 9 日	第 1 回認知症介護指導者養成研修(認知症介護研究・研修東京センター)
平成 22 年 5 月 20 日	～ 5 月 21 日	ユニットケア研修施設関係者連絡会(認知症介護研究・研修東京センター)
平成 22 年 5 月 22 日		平成 21 年度東京センター研究成果報告会(認知症介護研究・研修東京センター)
平成 22 年 6 月 2 日	～ 6 月 4 日	第 1 回ユニットリーダー研修(茨城県開発公社)
平成 22 年 6 月 9 日	～ 6 月 11 日	第 2 回ユニットリーダー研修(メルパルク KYOTO)
平成 22 年 6 月 12 日		認知症ケア地域推進ワークショップ(認知症介護研究・研修東京センター)
平成 22 年 6 月 16 日	～ 6 月 18 日	第 3 回ユニットリーダー研修(福岡国際会議場)
平成 22 年 6 月 16 日	～ 6 月 18 日	第 1 回ユニットケア施設管理者(認知症介護研究・研修東京センター)
平成 22 年 6 月 19 日	・7 月 3 日	地域型基礎研修(認知症介護研究・研修東京センター)
平成 22 年 6 月 26 日	・7 月 10 日	地域型基礎研修(認知症介護研究・研修東京センター)
平成 22 年 6 月 28 日	～ 6 月 30 日	第 4 回ユニットリーダー研修(多摩永山情報教育センター)
平成 22 年 6 月 30 日	～ 7 月 2 日	第 5 回ユニットリーダー研修(かるで 2.7)
平成 22 年 7 月 6 日	～ 7 月 8 日	第 2 回ユニットケア施設管理者(認知症介護研究・研修東京センター)
平成 22 年 7 月 7 日	～ 7 月 9 日	第 6 回ユニットリーダー研修(ウイंकあいち)
平成 22 年 7 月 11 日		センター方式フォローアップ研修(認知症介護研究・研修東京センター)
平成 22 年 7 月 16 日	～ 7 月 17 日	ひもときシートを活用した認知症ケアの気づきを学ぶ研修実践者コース(認知症介護研究・研修東京センター)
平成 22 年 7 月 17 日		ひもときシートを活用した認知症ケアの気づきを学ぶ研修基礎コース(認知症介護研究・研修東京センター)
平成 22 年 7 月 21 日	～ 7 月 23 日	第 7 回ユニットリーダー研修(メルパルク KYOTO)
平成 22 年 7 月 24 日	・25 日	認知症ケア地域推進研修(認知症介護研究・研修東京センター)
平成 22 年 7 月 26 日	～ 7 月 28 日	第 8 回ユニットリーダー研修(ジョーカー本館ビル)
平成 22 年 7 月 26 日	～ 7 月 30 日	第 1 回認知症介護指導者フォローアップ研修(認知症介護研究・研修東京センター)
平成 22 年 7 月 28 日	～ 7 月 30 日	第 9 回ユニットリーダー研修(岡山国際交流センター)
平成 22 年 7 月 29 日	～ 7 月 30 日	ひもときシートを活用した認知症ケアの気づきを学ぶ研修実践者コース(東京エレクトロンホール宮城)
平成 22 年 7 月 30 日		ひもときシートを活用した認知症ケアの気づきを学ぶ研修基礎コース(東京エレクトロンホール宮城)
平成 22 年 8 月 1 日	・8 月 21 日	地域型基礎研修(認知症介護研究・研修東京センター)
平成 22 年 8 月 4 日	～ 8 月 6 日	第 10 回ユニットリーダー研修(ホテルニューオータニ長岡)
平成 22 年 8 月 4 日	～ 8 月 6 日	第 3 回ユニットケア施設管理者(認知症介護研究・研修東京センター)
平成 22 年 8 月 6 日	～ 8 月 7 日	ひもときシートを活用した認知症ケアの気づきを学ぶ研修実践者コース(ダイテックサカエ貸会議室)
平成 22 年 8 月 7 日		ひもときシートを活用した認知症ケアの気づきを学ぶ研修基礎コース(ダイテックサカエ貸会議室)
平成 22 年 8 月 7 日		センター方式活かし方セミナー(認知症介護研究・研修東京センター)
平成 22 年 8 月 18 日	～ 8 月 19 日	ひもときシートを活用した認知症ケアの気づきを学ぶ研修実践者コース(くまもと県民交流館パレア)
平成 22 年 8 月 18 日	～ 8 月 20 日	第 11 回ユニットリーダー研修(熊本交通センターホテル)
平成 22 年 8 月 19 日		ひもときシートを活用した認知症ケアの気づきを学ぶ研修基礎コース(くまもと県民交流館パレア)
平成 22 年 8 月 22 日	・9 月 11 日	地域型基礎研修(認知症介護研究・研修東京センター)
平成 22 年 8 月 23 日	～ 10 月 22 日	第 2 回認知症介護指導者養成研修(認知症介護研究・研修東京センター)
平成 22 年 8 月 25 日	～ 8 月 27 日	第 12 回ユニットリーダー研修(ウイंकあいち)

平成22年8月30日～8月31日	ひもときシートを活用した認知症ケアの気づきを学ぶ研修実践者コース(広島市まちづくり市民交流プラザ)
平成22年8月30日～8月31日	ユニットケア研修フォローアップ研修(認知症介護研究・研修東京センター)
平成22年8月31日	ひもときシートを活用した認知症ケアの気づきを学ぶ研修基礎コース(広島市まちづくり市民交流プラザ)
平成22年9月1日～9月3日	第13回ユニットリーダー研修(JA共済埼玉ビル)
平成22年9月4日	センター方式活かし方セミナー
平成22年9月8日～9月10日	第4回ユニットケア施設管理者(認知症介護研究・研修東京センター)
平成22年9月15日～9月17日	第14回ユニットリーダー研修(ホテルホップインアミング)
平成22年9月15日～9月17日	第1回認知症連携担当者研修(認知症介護研究・研修東京センター)
平成22年9月16日	認知症ケア 地域づくり講座(認知症介護研究・研修東京センター)
平成22年9月17日	認知症ケア地域推進ワークショップ(認知症介護研究・研修東京センター)
平成22年9月24日～9月25日	ひもときシートを活用した認知症ケアの気づきを学ぶ研修実践者コース(大阪社会福祉指導センター)
平成22年9月25日	ひもときシートを活用した認知症ケアの気づきを学ぶ研修基礎コース(大阪社会福祉指導センター)
平成22年9月25日	センター方式フォローアップ研修(認知症介護研究・研修東京センター)
平成22年9月27日～9月28日	第1回看護職のためのユニットケア研修(認知症介護研究・研修東京センター)
平成22年9月29日～9月30日	ひもときシートを活用した認知症ケアの気づきを学ぶ研修実践者コース(北海道自治労会館)
平成22年9月30日	ひもときシートを活用した認知症ケアの気づきを学ぶ研修基礎コース(北海道自治労会館)
平成22年9月30日・10月21日	地域型基礎研修(認知症介護研究・研修東京センター)
平成22年10月2日・3日	認知症ケア地域推進研修
平成22年10月6日～10月8日	第5回ユニットケア施設管理者(認知症介護研究・研修東京センター)
平成22年10月14日～10月15日	ユニットリーダー研修実地研修施設勉強会(認知症介護研究・研修東京センター)
平成22年10月16日	第1回講習会「みんなで学びみんなでチャレンジ認知症ケア」(認知症介護研究・研修東京センター)
平成22年10月19日～10月21日	第15回ユニットリーダー研修(仙台国際センター)
平成22年10月20日～10月22日	第16回ユニットリーダー研修(ホテルニューオータニ長岡)
平成22年10月22日	認知症ケア 地域づくり講座
平成22年10月26日～10月27日	ひもときシートを活用した認知症ケアの気づきを学ぶ研修実践者コース(認知症介護研究・研修東京センター)
平成22年10月27日	ひもときシートを活用した認知症ケアの気づきを学ぶ研修基礎コース(認知症介護研究・研修東京センター)
平成22年10月27日～10月29日	第17回ユニットリーダー研修(メルパルク KYOTO)
平成22年10月28日～10月29日	第2回看護職のためのユニットケア研修(認知症介護研究・研修東京センター)
平成22年10月31日	認知症ケア テーマ型講座(認知症介護研究・研修東京センター)
平成22年11月1日～11月5日	ユニットケア指導者養成研修 初任者研修(認知症介護研究・研修東京センター)
平成22年11月1日～11月5日	第2回認知症介護指導者フォローアップ研修(認知症介護研究・研修東京センター)
平成22年11月2日～11月4日	第18回ユニットリーダー研修(メトロポリタン高崎)
平成22年11月3日～11月5日	第19回ユニットリーダー研修(福岡国際会議場)
平成22年11月3日	センター方式活かし方セミナー
平成22年11月4日	認知症ケア 地域づくり講座
平成22年11月8日～11月10日	第6回ユニットケア施設管理者(認知症介護研究・研修東京センター)
平成22年11月10日～11月12日	第20回ユニットリーダー研修(メルパルク OSAKA)
平成22年11月13日	認知症介護研究・研修センター設立10周年記念公開講座 2025年の認知症ケア(よみうりホール)

V  
運営部活動報告

平成 22 年 11 月 15 日 ~ 11 月 17 日	第 21 回ユニットリーダー研修(札幌コンベンションセンター)
平成 22 年 11 月 15 日 ~ 11 月 17 日	第 2 回認知症連携担当者研修(認知症介護研究・研修東京センター)
平成 22 年 11 月 18 日 ~ 11 月 19 日	第 1 回食に携わる職員のためのユニットケア研修(認知症介護研究・研修東京センター)
平成 22 年 11 月 21 日	第 2 回講習会「みんなで学びみんなでチャレンジ認知症ケア」(仙台ガーデンパレス 会議室 羽衣)
平成 22 年 11 月 24 日 ~ 11 月 26 日	第 22 回ユニットリーダー研修(ウイंकあいち)
平成 22 年 11 月 26 日	認知症ケア 地域づくり講座
平成 22 年 11 月 27 日	第 3 回講習会「みんなで学びみんなでチャレンジ認知症ケア」(柳原公民館)
平成 22 年 11 月 27 日・12 月 18 日	地域型基礎研修(認知症介護研究・研修東京センター)
平成 22 年 11 月 29 日 ~ 12 月 1 日	第 23 回ユニットリーダー研修(多摩永山情報教育センター)
平成 22 年 11 月 29 日 ~ 2 月 10 日	第 3 回認知症介護指導者養成研修(認知症介護研究・研修東京センター)
平成 22 年 12 月 1 日 ~ 12 月 3 日	第 24 回ユニットリーダー研修(メルパルク KYOTO)
平成 22 年 12 月 3 日	認知症ケア テーマ型講座(認知症介護研究・研修東京センター)
平成 22 年 12 月 4 日	第 4 回講習会「みんなで学びみんなでチャレンジ認知症ケア」(日本赤十字社 熊本健康管理センター)
平成 22 年 12 月 4 日	認知症ケア テーマ型講座(認知症介護研究・研修東京センター)
平成 22 年 12 月 5 日	第 5 回講習会「みんなで学びみんなでチャレンジ認知症ケア」(千葉大学亥鼻キャンパス)
平成 22 年 12 月 8 日 ~ 12 月 10 日	第 25 回ユニットリーダー研修(ウイंकあいち)
平成 22 年 12 月 8 日 ~ 12 月 10 日	第 7 回ユニットケア施設管理者(認知症介護研究・研修東京センター)
平成 22 年 12 月 11 日	センター方式活かし方セミナー(認知症介護研究・研修東京センター)
平成 22 年 12 月 12 日	センター方式フォローアップ研修(認知症介護研究・研修東京センター)
平成 22 年 12 月 13 日 ~ 12 月 15 日	第 26 回ユニットリーダー研修(熊本交通センターホテル)
平成 22 年 12 月 14 日	認知症ケア 地域づくり講座
平成 22 年 12 月 16 日 ~ 12 月 17 日	第 2 回食に携わる職員のためのユニットケア研修(認知症介護研究・研修東京センター)
平成 22 年 12 月 20 日 ~ 12 月 22 日	第 27 回ユニットリーダー研修(岡山コンベンションセンター)
平成 23 年 1 月 12 日 ~ 1 月 14 日	第 28 回ユニットリーダー研修(ウイंकあいち)
平成 23 年 1 月 12 日 ~ 1 月 14 日	第 8 回ユニットケア施設管理者(認知症介護研究・研修東京センター)
平成 23 年 1 月 17 日 ~ 1 月 19 日	第 29 回ユニットリーダー研修(仙台国際センター)
平成 23 年 1 月 19 日 ~ 1 月 21 日	第 30 回ユニットリーダー研修(メトロポリタン高崎)
平成 23 年 1 月 21 日	認知症ケア地域推進ワークショップ(認知症介護研究・研修東京センター)
平成 23 年 1 月 22 日・23 日	認知症ケア地域推進研修
平成 23 年 1 月 24 日 ~ 1 月 26 日	第 3 回認知症連携担当者研修(認知症介護研究・研修東京センター)
平成 23 年 1 月 25 日 ~ 1 月 27 日	第 31 回ユニットリーダー研修(岡山コンベンションセンター)
平成 23 年 1 月 26 日 ~ 1 月 27 日	認知症介護実践者等養成事業にかかる都道府県等担当者セミナー(認知症介護研究・研修東京センター)
平成 23 年 2 月 2 日 ~ 2 月 4 日	第 32 回ユニットリーダー研修(メルパルク OSAKA)
平成 23 年 2 月 2 日 ~ 2 月 4 日	第 9 回ユニットケア施設管理者(認知症介護研究・研修東京センター)
平成 23 年 2 月 5 日・6 日	認知症ケア地域推進研修(認知症介護研究・研修東京センター)
平成 23 年 2 月 9 日 ~ 2 月 11 日	第 33 回ユニットリーダー研修(福岡国際会議場)
平成 23 年 2 月 14 日 ~ 2 月 16 日	第 34 回ユニットリーダー研修(ウイंकあいち)
平成 23 年 2 月 16 日 ~ 2 月 17 日	ひもときシートを活用した認知症ケアの気づきを学ぶ研修実践者コース(認知症介護研究・研修東京センター)
平成 23 年 2 月 16 日 ~ 2 月 18 日	第 35 回ユニットリーダー研修(HOTEL PLUMM/COSMO Y)
平成 23 年 2 月 16 日 ~ 2 月 18 日	第 36 回ユニットリーダー研修(燕三条ワシントンホテル)
平成 23 年 2 月 17 日	ひもときシートを活用した認知症ケアの気づきを学ぶ研修基礎コース(認知症介護研究・研修東京センター)
平成 23 年 2 月 25 日	ユニットケア指導者養成研修 修了時研修(認知症介護研究・研修東京センター)
平成 23 年 3 月 2 日 ~ 3 月 4 日	第 10 回ユニットケア施設管理者(認知症介護研究・研修東京センター)

---

2010年度 認知症介護研究・研修東京センター 年報

---

発行日：2011（平成23）年3月31日

発行：社会福祉法人 浴風会  
認知症介護研究・研修東京センター  
〒168-0071 東京都杉並区高井戸西 1-12-1  
TEL 03-3334-2173  
FAX 03-3334-2718  
E-MAIL [tokyo\\_dcrc@dcnet.gr.jp](mailto:tokyo_dcrc@dcnet.gr.jp)  
URL <http://www.dcnet.gr.jp/tokyo/>

---





社会福祉法人 浴風会  
認知症介護研究・研修東京センター  
〒168-0071 東京都杉並区高井戸西1-12-1  
TEL. 03-3334-2173 FAX. 03-3334-2718  
東京センター代表 E-mail : tokyo\_dcrc@dcnet.gr.jp